
令和4年度
福岡市高齢者実態調査
報告書
【概要版】

令和5年7月
福岡市 福祉局

< 目 次 >

I 調査概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の概要.....	1
3. 回収の結果.....	2
4. 資料の見方.....	2
II 調査結果	3
第1章 高齢者一般調査共通設問	3
1. 回答者の属性.....	3
2. 世帯状況.....	4
3. 情報通信機器利用状況.....	5
第2章 高齢者一般調査 A	7
1. 日常生活.....	7
(1) 外出.....	7
(2) 近所付き合い.....	9
(3) 孤立死.....	10
(4) 災害時や緊急時.....	12
2. 生きがい・社会活動.....	13
(1) 生きがいを感じること.....	13
(2) 仕事.....	14
(3) 社会参加.....	17
第3章 高齢者一般調査 B	19
1. 住まい.....	19
(1) 住居形態.....	19
(2) 困りごと・住み替え.....	20
2. 健康状態.....	22
(1) 健康状態.....	22
(2) 健康づくりや介護予防.....	24
(3) 生活・体調等の変化.....	26
(4) 口腔.....	28
(5) 認知症.....	29
3. 医療・福祉.....	31
(1) いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）.....	31
(2) 在宅医療.....	32
(3) 今後の介護意向.....	33
(4) 行政への要望.....	34

第4章 介護サービス調査共通設問	35
1. 回答者の属性	35
(1) 性別・年齢	35
(2) 要介護度	36
2. 在宅医療	37
3. 今後の介護の受け方	39
4. 介護保険制度	40
5. 介護者	41
(1) 介護者の属性	41
(2) 介護者の就業	42
(3) 今後の介護の仕方	44
第5章 介護保険在宅サービス利用者調査	45
1. 介護保険サービスの利用状況	45
2. 在宅で生活するために必要性が高いサービス	46
第6章 介護保険在宅サービス未利用者調査	47
1. 介護保険サービスの利用状況	47
(1) 在宅サービスの利用経験	47
(2) 在宅サービスを利用していない理由	48
2. 今後の介護保険サービスの利用	49
第7章 介護保険施設等サービス利用者調査	50
1. 施設等への入所を希望した理由・現在の施設の満足度	50
2. 施設等を選ぶときに重視する点	51
第8章 介護支援専門員調査	52
1. 回答者の属性	52
2. 勤務形態・兼務内容	53
3. ケアマネジメント	54
(1) 給付管理件数	54
(2) 組み合わせた保険外サービス	54
(3) 今後充実が必要な保険外サービス	55
4. 地域ケア会議	56
5. 行政に期待する役割	57

I 調査概要

1. 調査の目的

福岡市に在住する高齢者などの保健福祉に関するニーズ・意識などを把握することにより、「第9期介護保険事業計画」の策定に必要な基礎的データを収集・分析するとともに、本市の高齢者福祉施策の向上に資することを目的とする。

2. 調査の概要

調査種別	対象者・調査人数	発送日	回収期限
高齢者一般調査A	・市内在住の60歳以上（令和4年10月時点）の者 ・3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）	令和5年 1月31日	令和5年 2月20日 郵送着まで
高齢者一般調査B	・市内在住の60歳以上（令和4年10月時点）の者 ・3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）		
介護保険在宅サービス利用者調査	・介護保険在宅サービス利用者（令和4年10月時点） ・3,000人（無作為抽出）		
介護保険在宅サービス未利用者調査	・在宅の要介護認定者のうち、サービス未利用者（令和4年10月時点） ・2,000人（無作為抽出）		
介護保険施設等サービス利用者調査	・市内の介護保険施設、グループホーム入所者（令和4年10月時点） ・1,500人（無作為抽出）		
介護支援専門員調査	・市内の居宅介護支援事業所、いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）所属の介護支援専門員（令和4年12月時点） ・1,448人		

3. 回収の結果

調査種別	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
高齢者一般調査A	3,000	1,801	60.0%	1,798	59.9%
高齢者一般調査B	3,000	1,786	59.5%	1,786	59.5%
介護保険在宅サービス利用者調査	3,000	1,476	49.2%	1,474	49.1%
介護保険在宅サービス未利用者調査	2,000	1,217	60.9%	1,211	60.6%
介護保険施設等サービス利用者調査	1,500	870	58.0%	733	48.9%
介護支援専門員調査	1,448	1,006	69.5%	1,006	69.5%

※回収された調査票から白紙のものを除いた有効票のみを集計に使用している。

4. 資料の見方

- (1)集計結果は、標本数（図ではnと表示）を基数として百分比（%）を算出し、小数点第1位（第2位を四捨五入）までを図表に表している。
- (2)小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の計が100%とならない場合がある。また複数回答の質問においては、百分比の合計が100%を超える場合がある。
- (3)図表中の「N」（Number of casesの略）とは設問に対する回答件数の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数である。
- (4)図表の表頭、表側部分の文章は、適宜簡略化している場合があるので、必要に応じて巻末の調査票を参照のこと。
- (5)グラフ内の数値の単位はすべて%である。
- (6)2つ以上の選択肢を合計して表している比率は、各選択肢の割を合計して算出している。
- (7)文中の選択肢の表記は「」で行い、2つ以上のものを合計して表す選択肢は『』で表記している。

Ⅱ 調査結果

第1章 高齢者一般調査共通設問

「高齢者一般調査 A」「高齢者一般調査 B」の2つの調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるよう「共通設問」として掲載した。

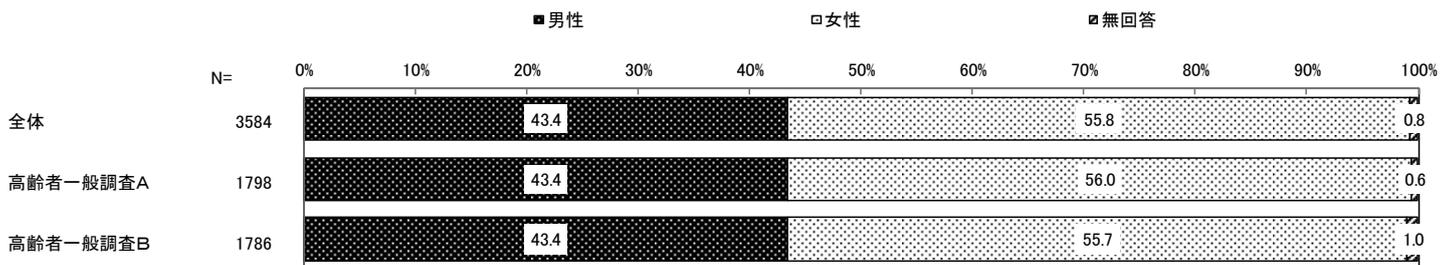
1. 回答者の属性

(調査A：問2・問3、調査B：問2・問3)

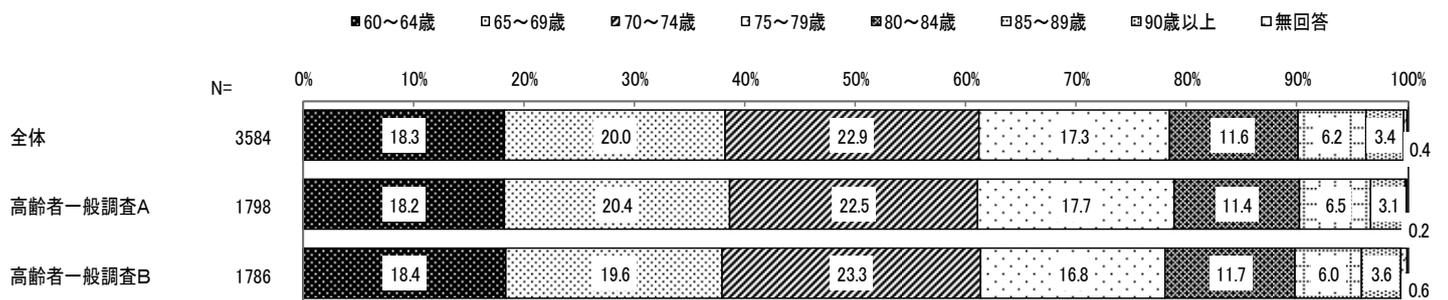
◇回答者は、調査Aでは「男性」が43.4%、「女性」が56.0%、調査Bでは「男性」が43.4%、「女性」が55.7%となっている。【図表 1-1-1】

◇『65歳以上の高齢者』は、調査Aでは81.6%、調査Bでは81.0%となっている。『75歳以上の後期高齢者』は、調査Aでは38.7%、調査Bでは38.1%となっている。【図表 1-1-2】

【図表 1-1-1 性別】



【図表 1-1-2 年齢】



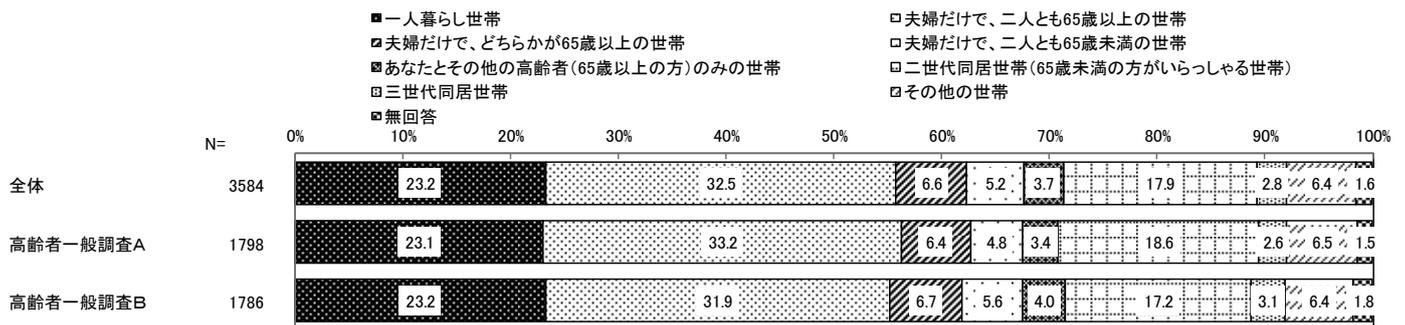
	65歳以上	75歳以上
調査A	81.6	38.7
調査B	81.0	38.1

2. 世帯状況

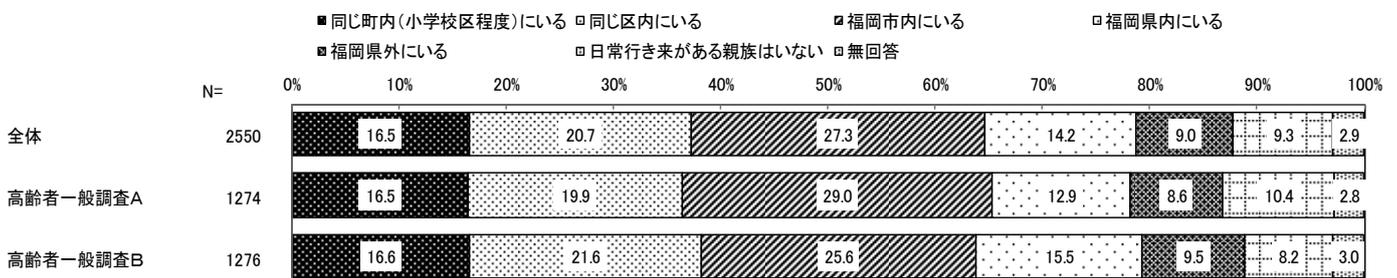
(調査A：問5・問5-1、調査B：問5・問5-1)

◇「一人暮らし世帯」は、調査Aでは23.1%、調査Bでは23.2%となっている。【図表1-2-1】
 ◇「一人暮らし世帯」と「夫婦だけで、二人とも65歳以上の世帯」、「夫婦だけで、どちらかが65歳以上の世帯」、「夫婦だけで、二人とも65歳未満の世帯」、「あなたとその他の高齢者(65歳以上の方)のみの世帯」を合わせた『高齢者のみで暮らす世帯』のうち、日常行き来がある親族のいる場所が『福岡市内』であるのは、調査Aでは65.4%、調査Bでは63.8%となっている。【図表1-2-2】

【図表 1-2-1 世帯構成】



【図表 1-2-2 日常行き来がある親族のいる場所】



	福岡市内
調査A	65.4
調査B	63.8

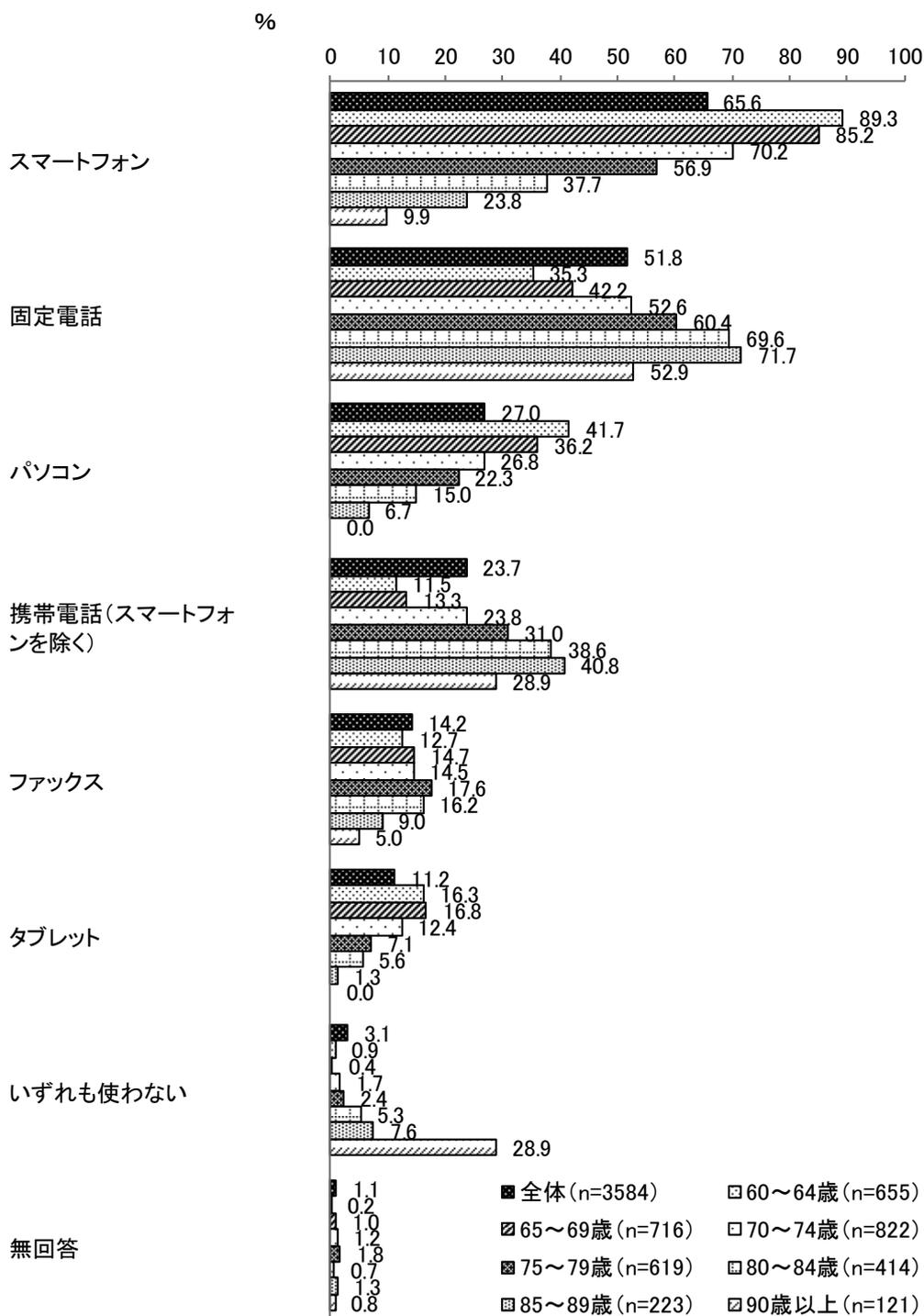
3. 情報通信機器利用状況

(調査A：問8・問8-1、調査B：問8・問8-1)

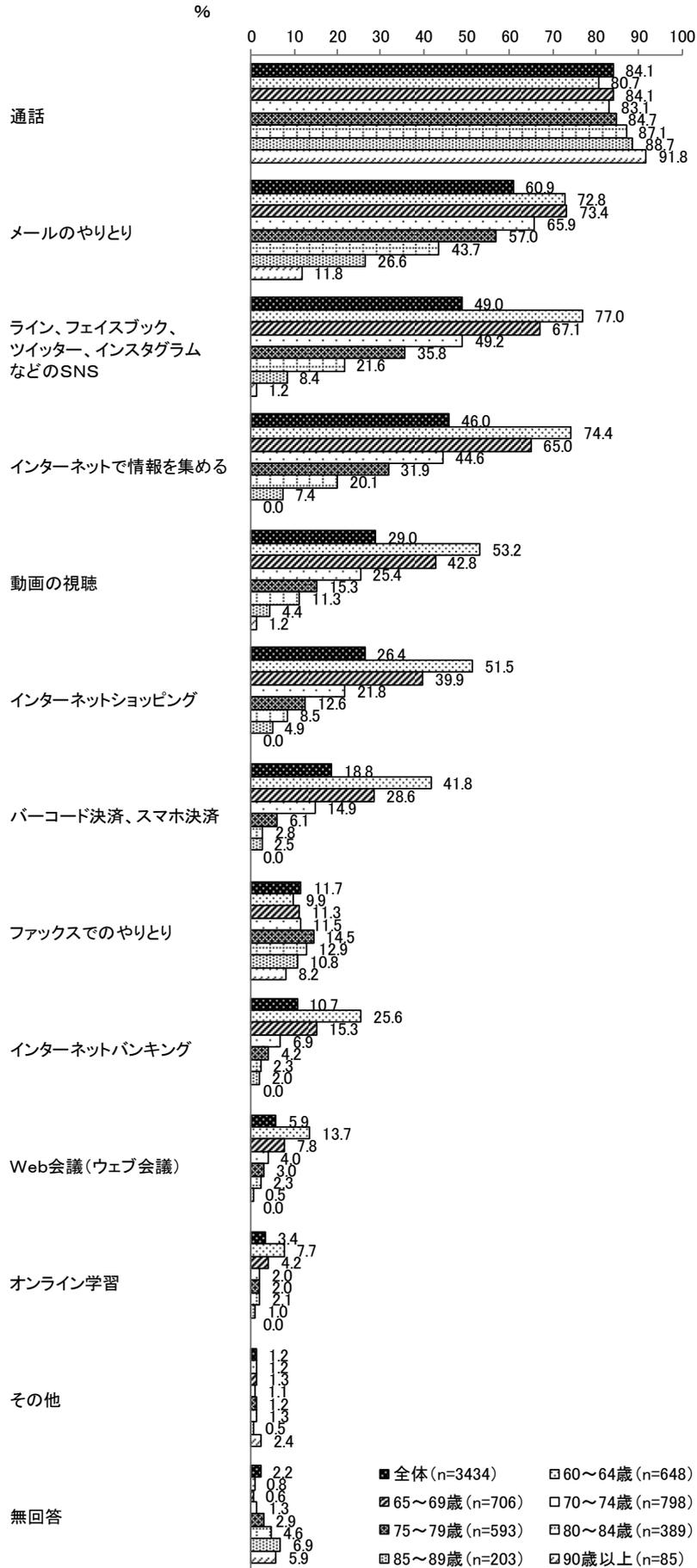
◇利用している情報通信機器は、全体では「スマートフォン」が65.6%で最も高く、次いで「固定電話」が51.8%、「パソコン」が27.0%となっている。【図表 1-3-1】

◇情報通信機器の利用用途は、全体では「通話」が84.1%で最も高く、次いで「メールのやりとり」が60.9%、「ライン、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなどのSNS」が49.0%となっている。【図表 1-3-2】

【図表 1-3-1 利用している情報通信機器（年齢別）[複数回答]】



【図表 1-3-2 情報通信機器の利用用途（年齢別）〔複数回答〕】



第2章 高齢者一般調査 A

1. 日常生活

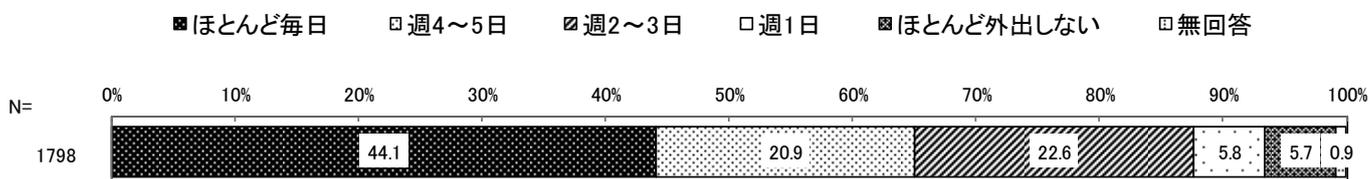
(1) 外出（問9・問9-3・問11）

◇一週間あたりの外出頻度は、「ほとんど毎日」が44.1%で最も高く、次いで「週2～3日」が22.6%、「週4～5日」が20.9%となっている。【図表2-1-1】

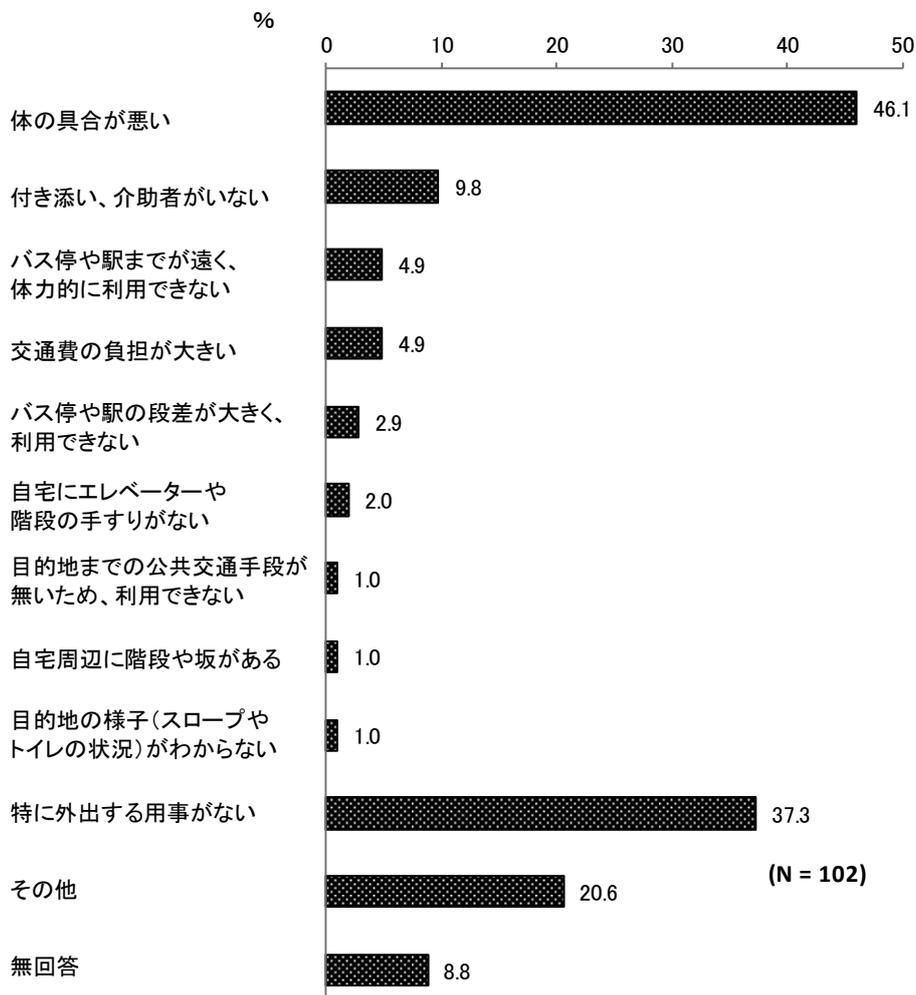
◇外出しない理由は、「体の具合が悪い」が46.1%で最も高く、次いで「特に外出する用事がない」が37.3%となっている。【図表2-1-2】

◇外出の際に困っていることは、「自転車や車などの交通マナーが悪い」が20.9%、「バス停に屋根やベンチなどの待合施設が少ない」が15.3%となっている。【図表2-1-3】

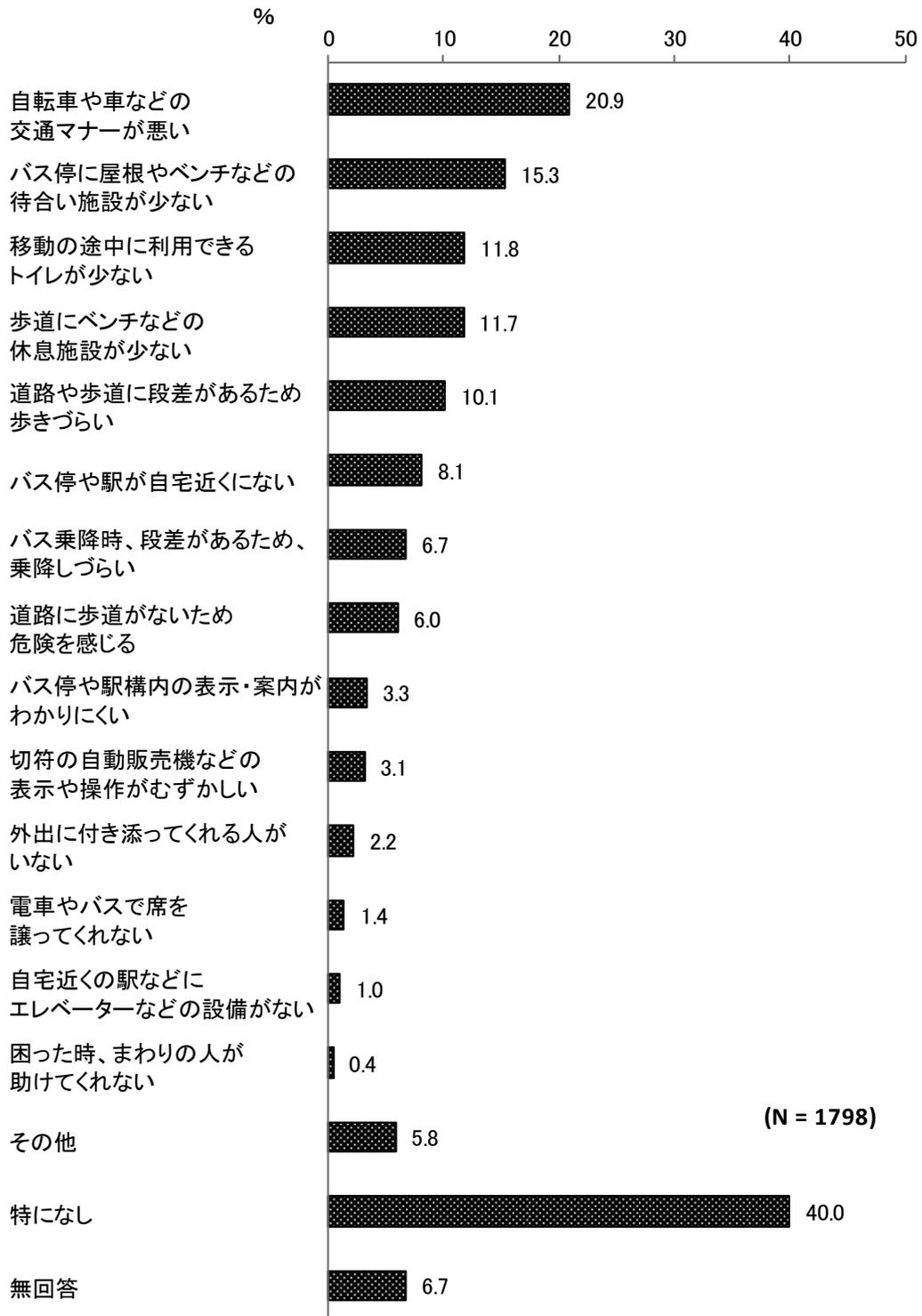
【図表 2-1-1 一週間の外出頻度】



【図表 2-1-2 外出しない理由 [複数回答]】



【図表 2-1-3 外出の困りごと [複数回答]】

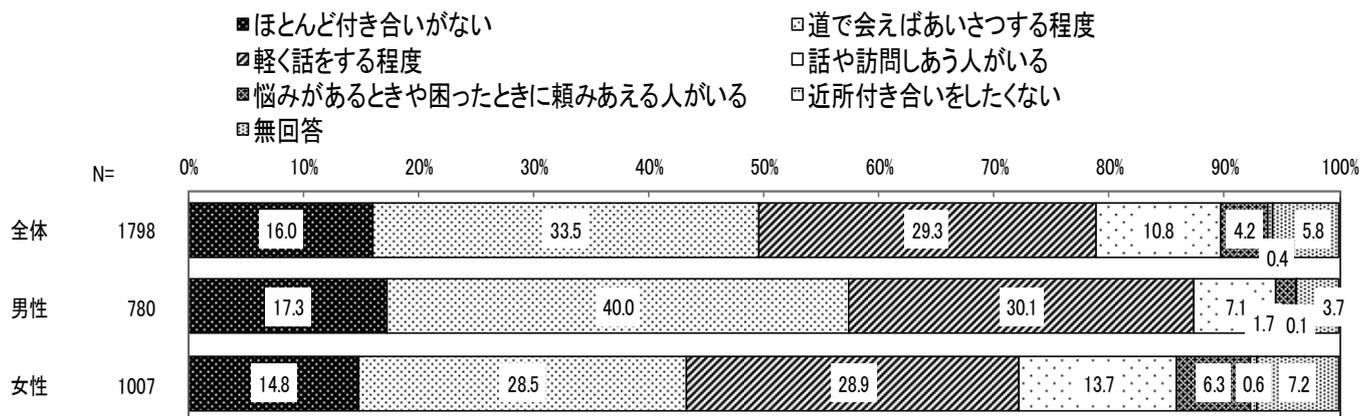


(2) 近所付き合い (問 13)

◇近所付き合いの程度は、「ほとんど付き合いがない」と「道で会えばあいさつする程度」を合わせた『近所付き合いが少ない』は 49.5%、一方、「話や訪問しあう人がいる」と「悩みがあるときや困ったときに頼みあえる人がいる」を合わせた『近所付き合いが多い』は 15.0%となっている。【図表 2-1-4】

◇『近所付き合いが少ない』は男性で 57.3%、女性で 43.3%となっており、男性は女性よりも『近所付き合いが少ない』の割合が高い。【図表 2-1-4】

【図表 2-1-4 近所付き合い】

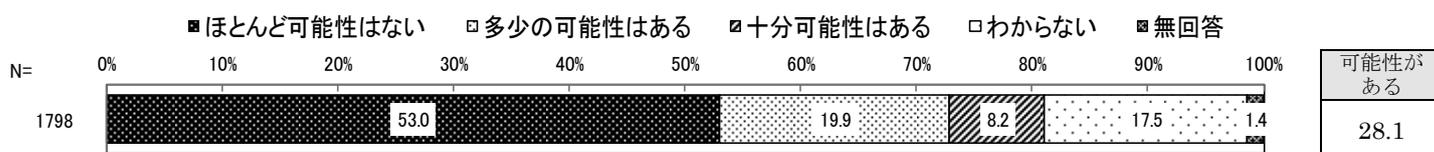


	近所付き合いが少ない	近所付き合いが多い
全体	49.5	15.0
男性	57.3	8.8
女性	43.3	20.0

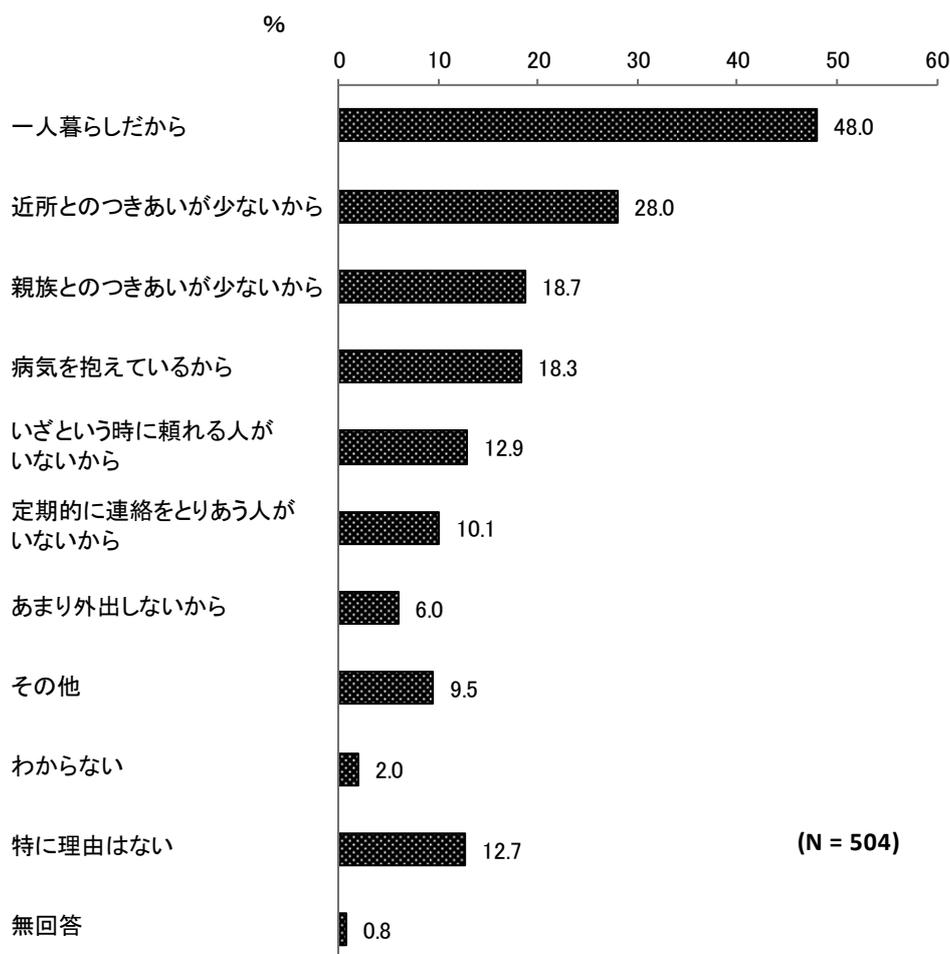
(3) 孤立死 (問 14・問 14-1・問 15)

◇孤立死する可能性の認識は、「ほとんど可能性はない」が53.0%で最も高く、次いで「多少の可能性はある」と「十分可能性はある」を合わせた『可能性がある』が28.1%となっている。【図表 2-1-5】
 ◇孤立死する可能性がある理由は、「一人暮らしだから」が48.0%で最も高く、次いで「近所とのつきあいが少ないから」が28.0%、「親族とのつきあいが少ないから」が18.7%となっている。【図表 2-1-6】
 ◇孤立死防止策として必要なことは、「行政が提供する福祉サービス」が40.4%で最も高く、次いで「健康づくりや趣味活動への参加」が30.7%となっている。【図表 2-1-7】

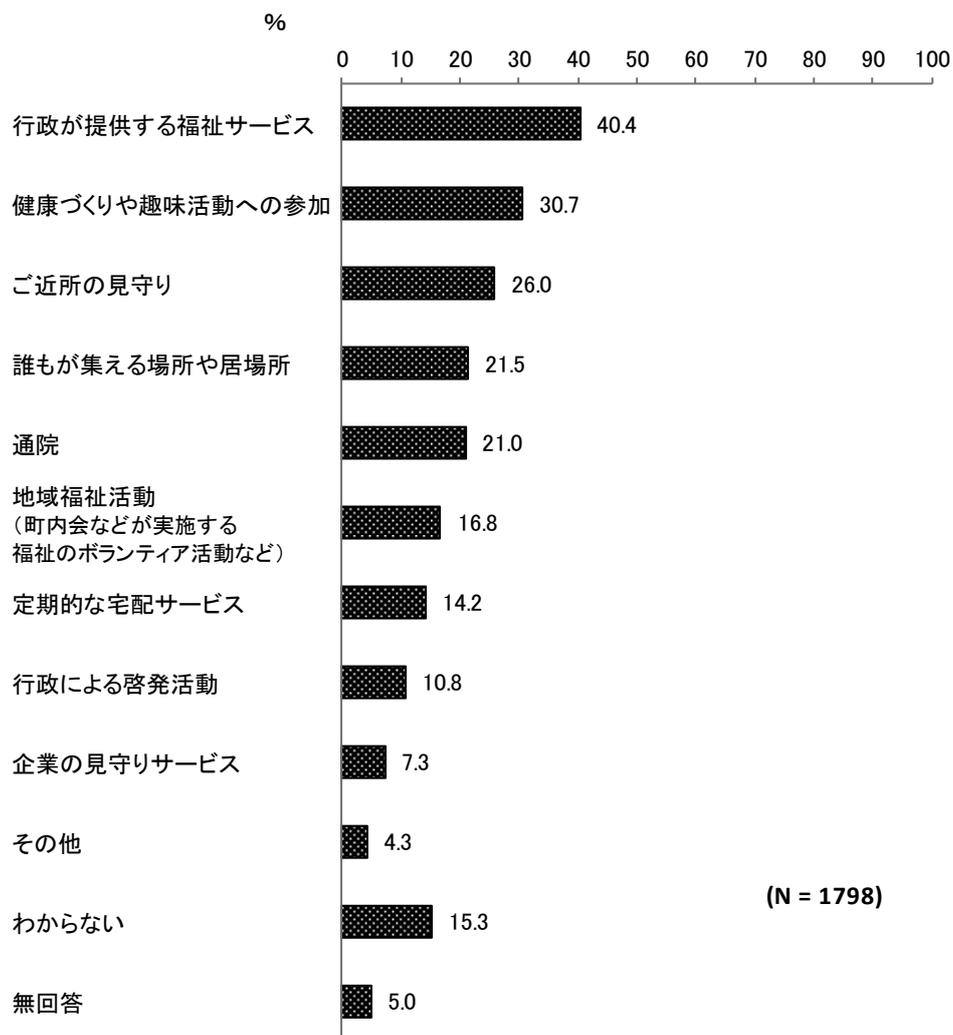
【図表 2-1-5 孤立死する可能性】



【図表 2-1-6 孤立死する理由 [複数回答]】



【図表 2-1-7 孤立死防止策として必要と思うこと〔複数回答〕】



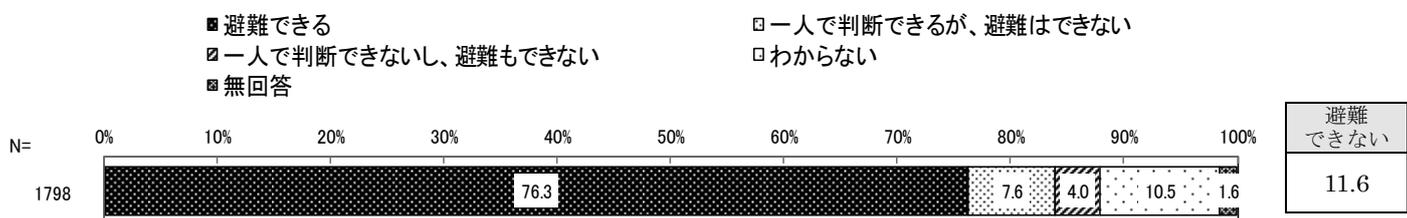
(4) 災害時や緊急時（問 17・問 18・問 19）

◇災害時や緊急時における一人での避難は、「避難できる」が76.3%、「一人で判断できるが、避難はできない」と「一人で判断できないし、避難もできない」を合わせた『避難できない』の割合が11.6%となっている。【図表 2-1-8】

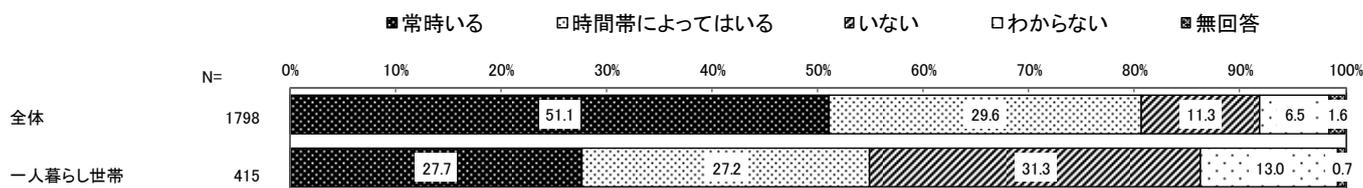
◇災害時に手助けを頼める人の有無は、「常時いる」が51.1%で最も高く、次いで「時間帯によってはいる」が29.6%、「いない」が11.3%となっている。一人暮らし世帯では、「いない」が31.3%と他の世帯構成と比べて高くなっている。【図表 2-1-9】

◇災害時の心配事や問題点は、全体で「避難所での生活が不安」が45.2%で最も高く、次いで「特にない」が36.0%、「情報をうまく入手できない」が18.1%となっている。【図表 2-1-10】

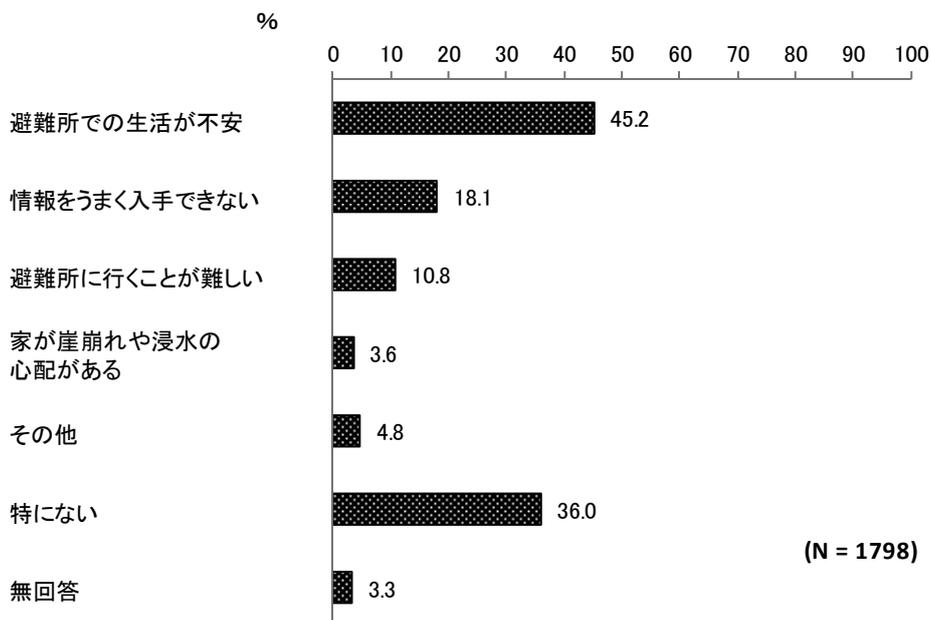
【図表 2-1-8 災害時や緊急時における一人での避難】



【図表 2-1-9 災害時や緊急時に手助けを頼める人の状況（全体・一人暮らし）】



【図表 2-1-10 災害時の心配事や問題点の内容【複数回答】】



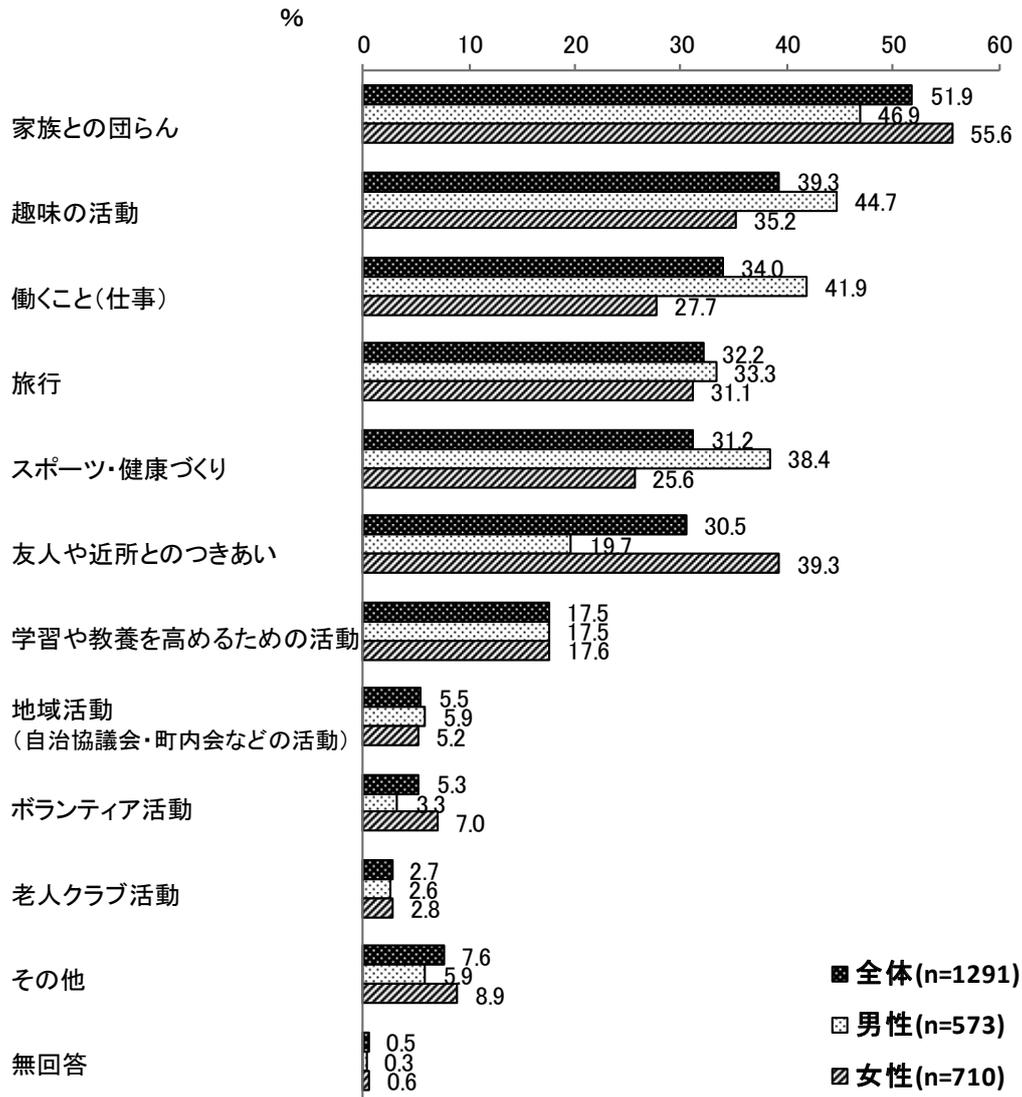
2. 生きがい・社会参加

(1) 生きがいを感じること (問 22-1)

◇生きがいを感じることは、「家族との団らん」が51.9%で最も高く、次いで「趣味の活動」が39.3%となっている。【図表 2-2-1】

◇男性の上位3位は「家族との団らん」「趣味の活動」「働くこと(仕事)」、女性の上位3位は「家族との団らん」「友人や近所とのつきあい」「趣味の活動」となっている。【図表 2-2-1】

【図表 2-2-1 生きがいを感じること (性別) [複数回答]】

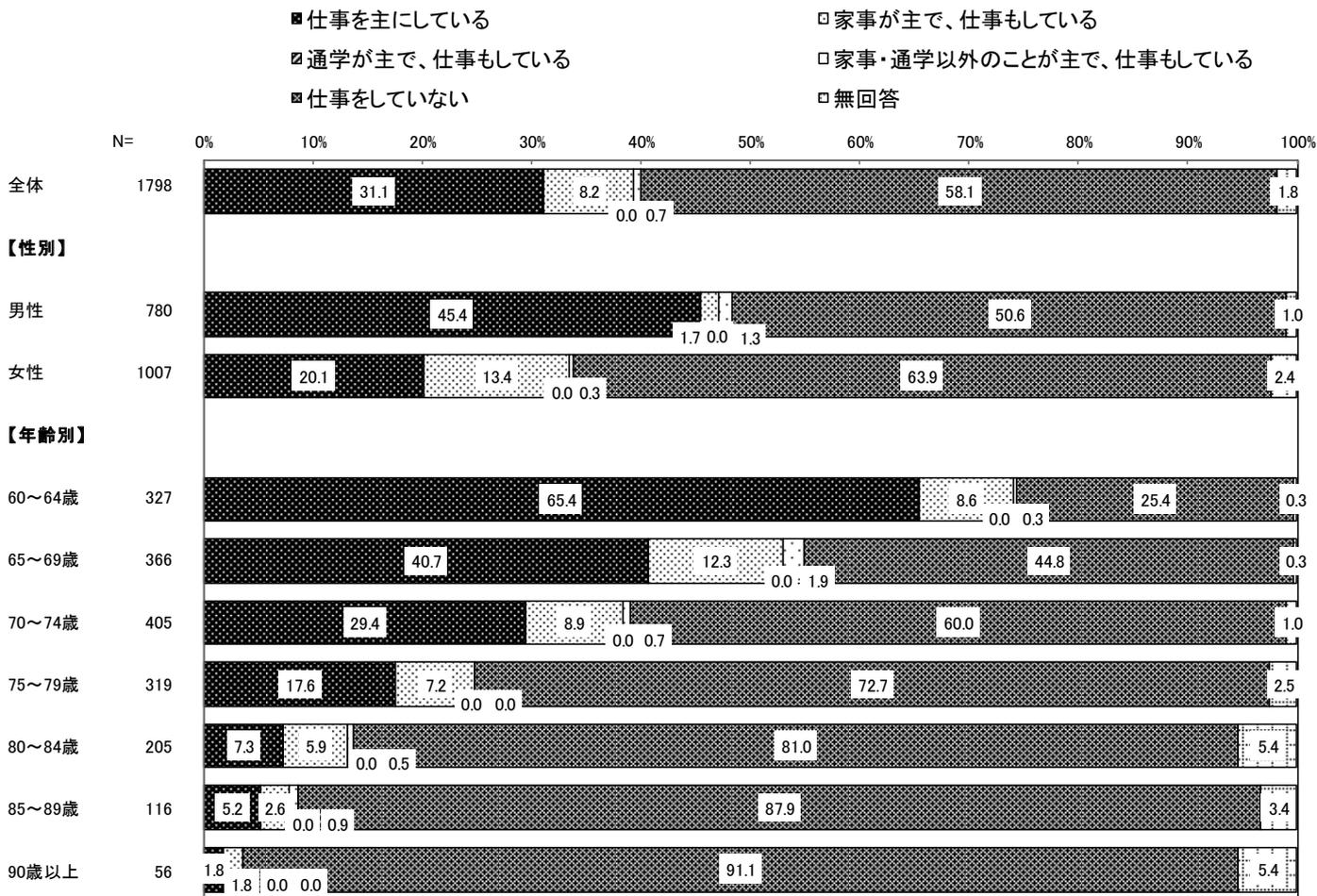


(2) 仕事 (問 27・問 27-4・問 27-5・問 27-6)

◇日々の過ごし方は、「仕事をしていない」が58.1%で最も高く、次いで「仕事を主にしている」が31.1%となっている。【図表 2-2-2】

◇「仕事を主にしている」と回答した人を年齢別にみると、60~64歳で65.4%、65~69歳で40.7%、70~74歳で29.4%、75~79歳で17.6%と、年齢が若いほど割合が高くなる傾向にある。【図表 2-2-2】

【図表 2-2-2 日々の過ごし方 (性別・年齢別)】

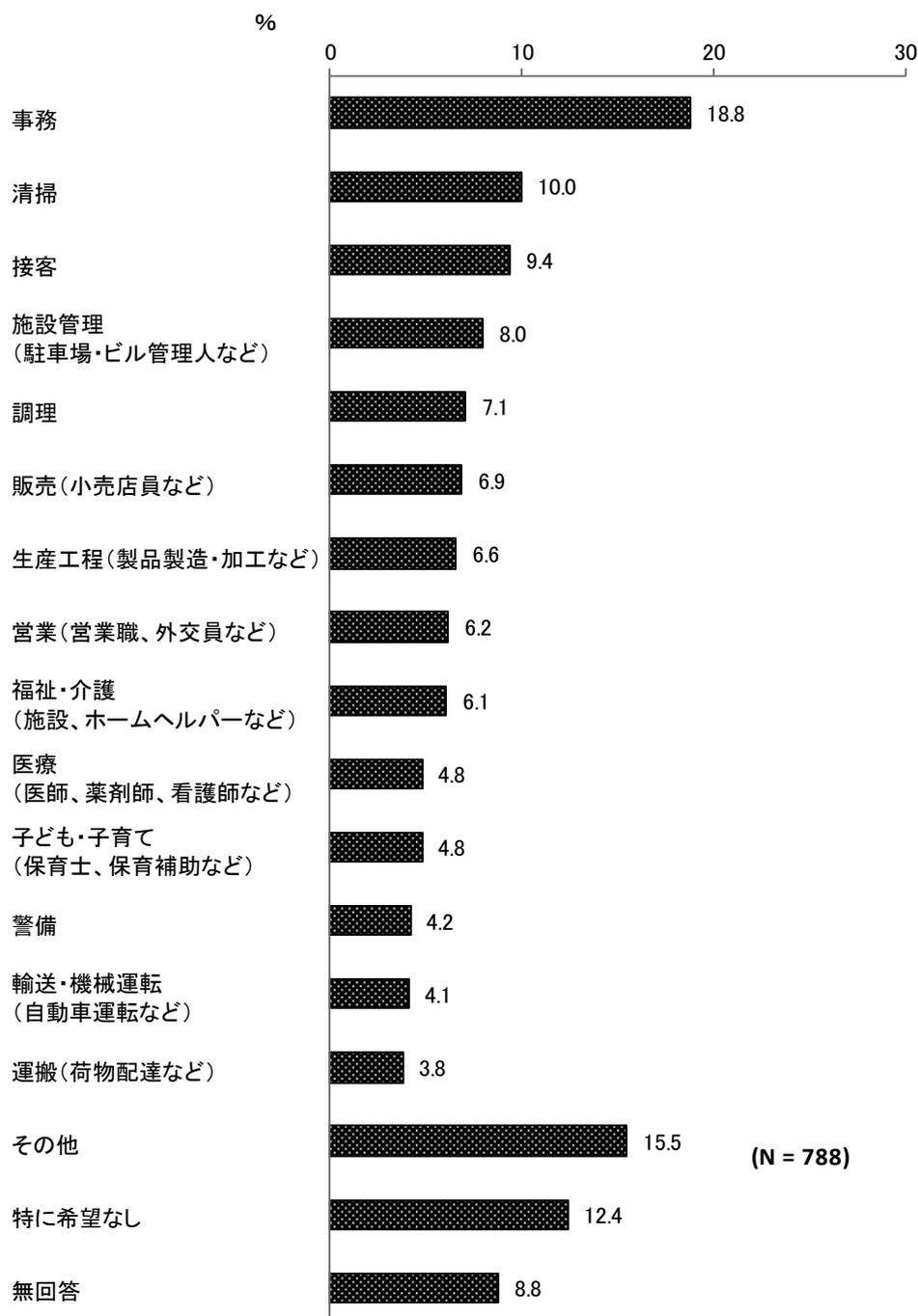


◇希望する仕事内容は、「事務」が18.8%で最も高く、次いで「その他」が15.5%、「清掃」が10.0%となっている。【図表 2-2-3】

◇希望する就労形態は、「パート・アルバイト」が35.5%で最も高く、次いで「嘱託・契約社員」が14.1%、「個人事業主（フリーランスを含む）」が12.1%となっている。【図表 2-2-4】

◇仕事をしたい頻度は、一週間に「5日以上」、一日に「4～6時間」が最も高かった。【図表 2-2-5】
【図表 2-2-6】

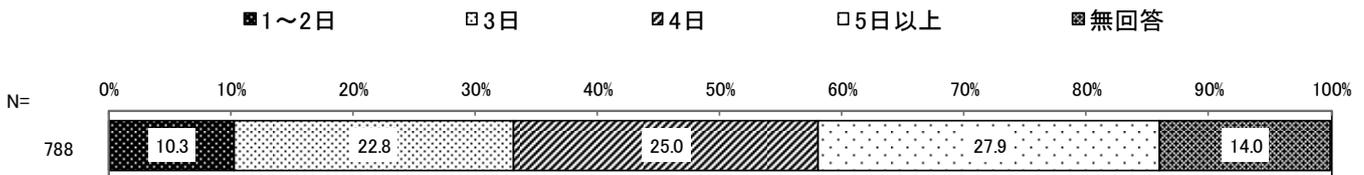
【図表 2-2-3 希望する仕事内容[複数回答]】



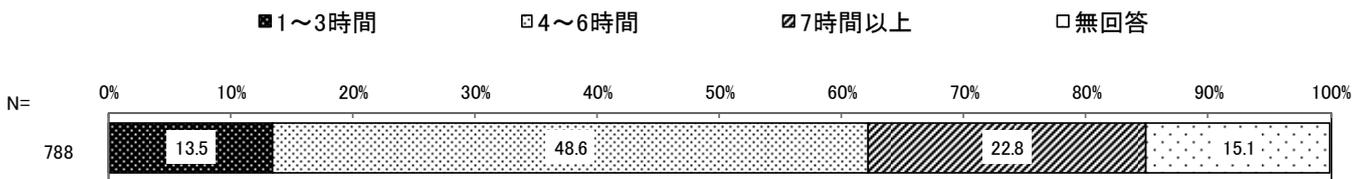
【図表 2-2-4 希望する就労形態】



【図表 2-2-5 仕事をしたい頻度/一週間に】



【図表 2-2-6 仕事をしたい頻度/一日に】



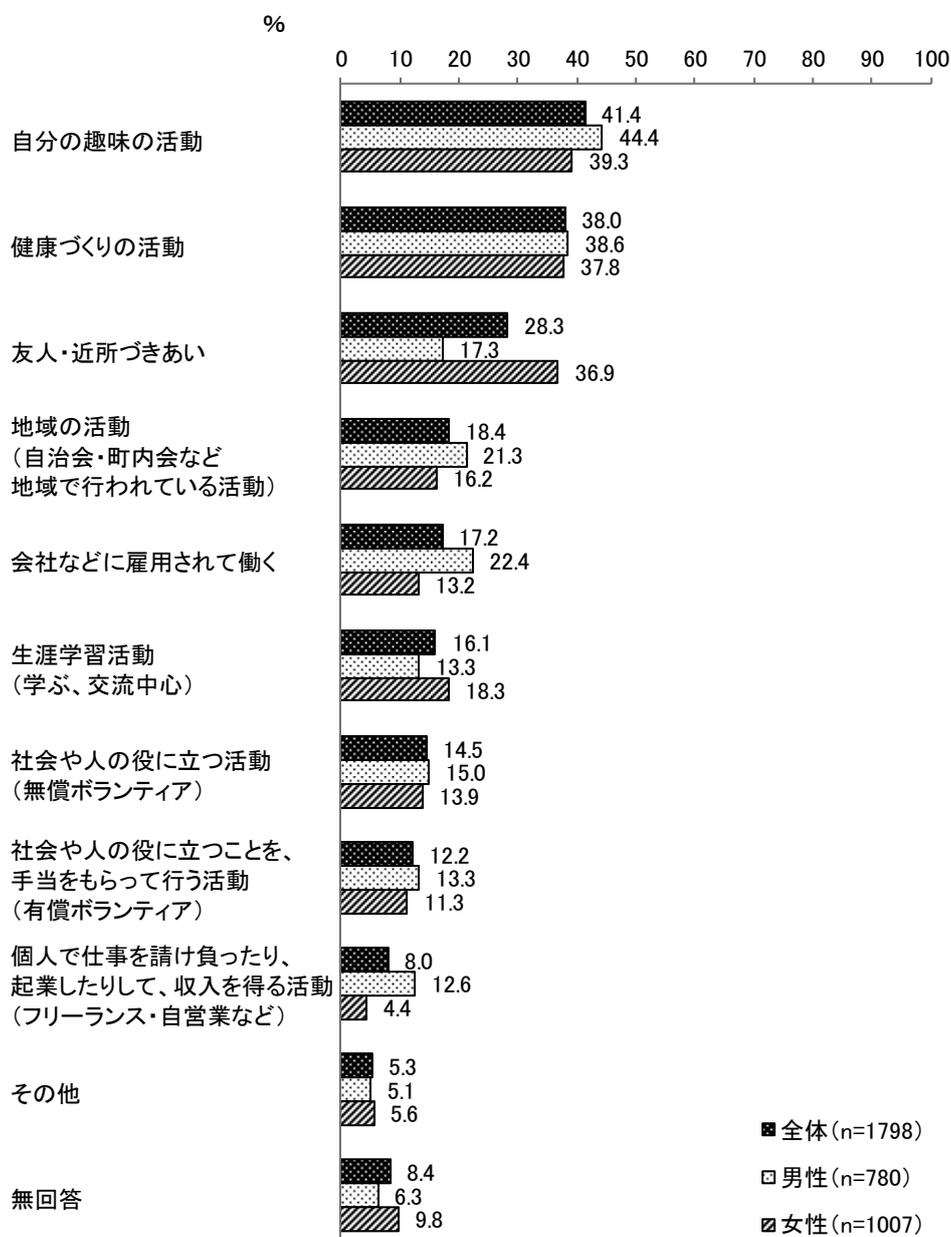
(3) 社会参加 (問 28・問 29)

◇社会参加したい活動は、「自分の趣味の活動」が41.4%で最も高く、次いで「健康づくりの活動」が38.0%、「友人・近所づきあい」が28.3%となっている。【図表 2-2-7】

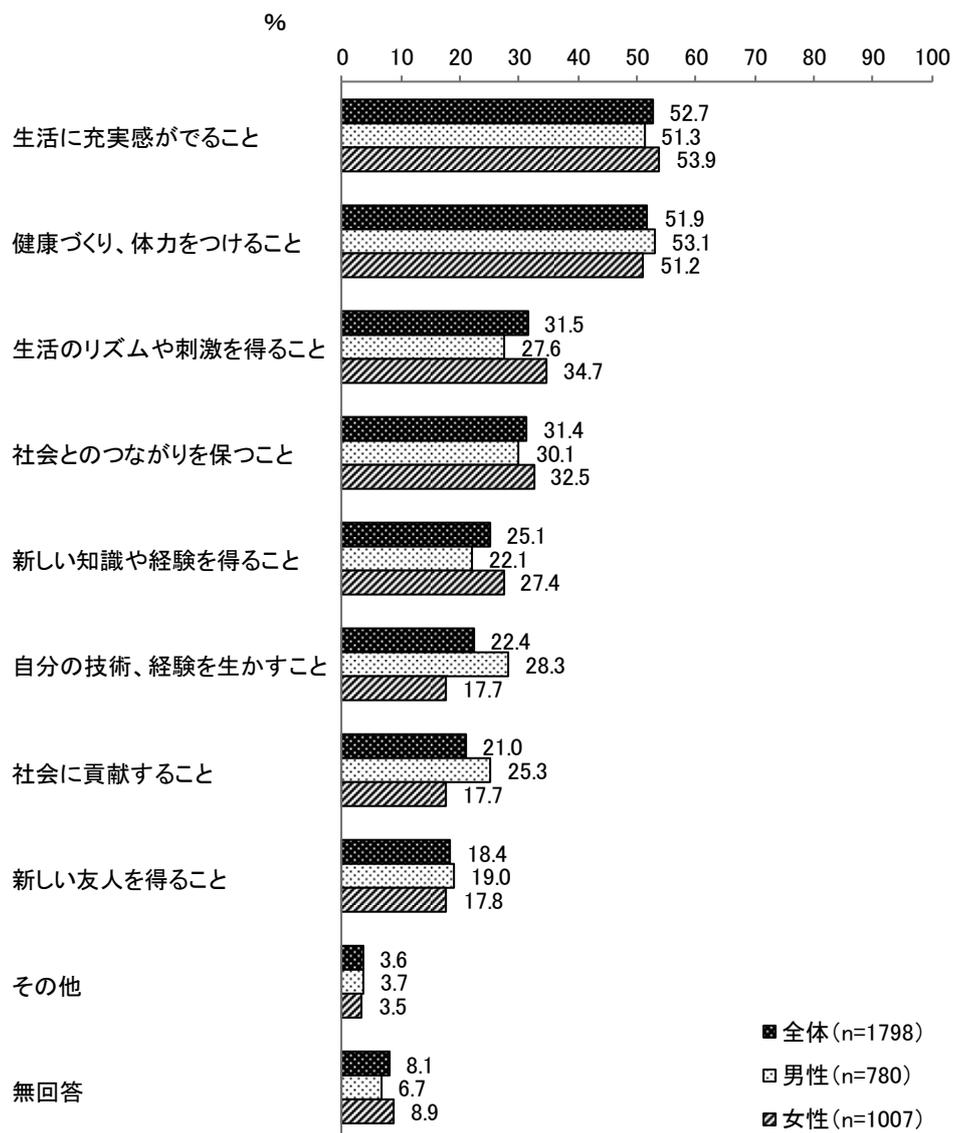
◇性別にみると、「会社などに雇用されて働く」では、男性が22.4%、女性が13.2%と、男性が女性を上回っている。一方「友人・近所づきあい」では、男性が17.3%、女性が36.9%と、女性が男性を大きく上回っている。【図表 2-2-7】

◇社会参加を行う際に期待することは、「生活に充実感がでること」が52.7%で最も高く、次いで「健康づくり、体力をつけること」が51.9%、「生活のリズムや刺激を得ること」が31.5%、「社会とのつながりを保つこと」が31.4%となっている。【図表 2-2-8】

【図表 2-2-7 社会参加したい活動 (性別) [複数回答]】



【図表 2-2-8 社会参加を行う際に期待すること（性別）〔複数回答〕】



第3章 高齢者一般調査 B

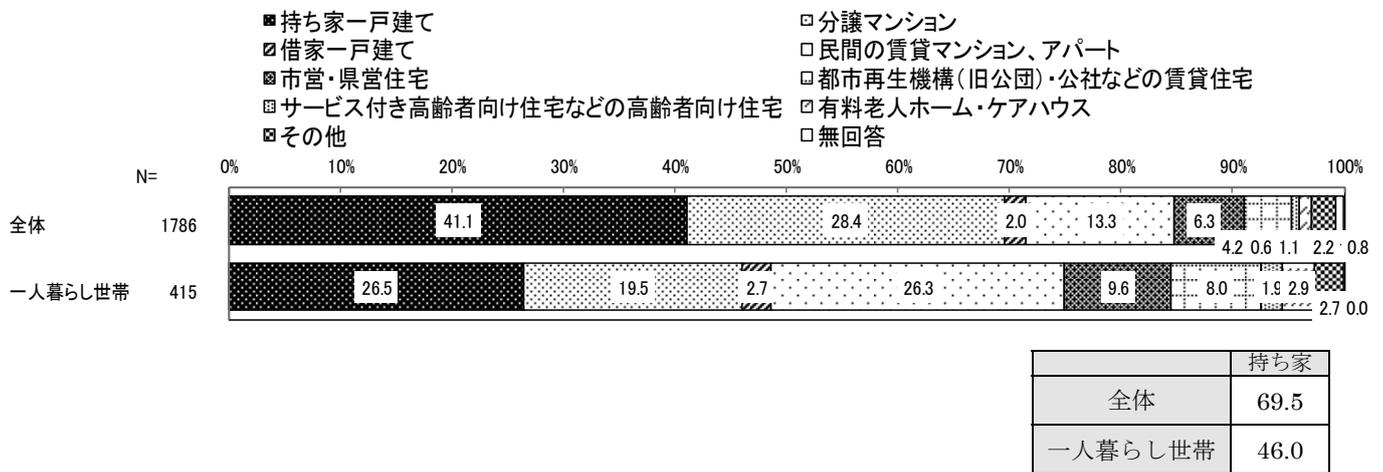
1. 住まい

(1) 住居形態 (問9・問9-1)

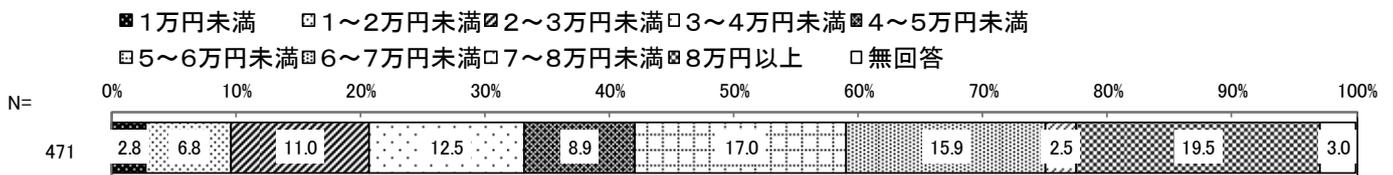
◇住居形態は、「持ち家一戸建て」が41.1%で最も高く、次いで「分譲マンション」が28.4%となっていて、これらを合わせた『持ち家』が69.5%となっている。ただし一人暮らし世帯に限ると『持ち家』が46.0%と他の世帯構成と比べて低くなっている。【図表3-1-1】

◇「借家一戸建て」「民間の賃貸マンション、アパート」「市営・県営住宅」「都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅」「サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向け住宅」を合わせた『賃貸住宅』に住んでいる人の1か月の家賃は、「8万円以上」が19.5%で最も高く、次いで「5~6万円未満」が17.0%、「6~7万円未満」が15.9%となっている。【図表3-1-2】

【図表 3-1-1 住居形態 (全体・一人暮らし)】



【図表 3-1-2 住まいの1か月の家賃】



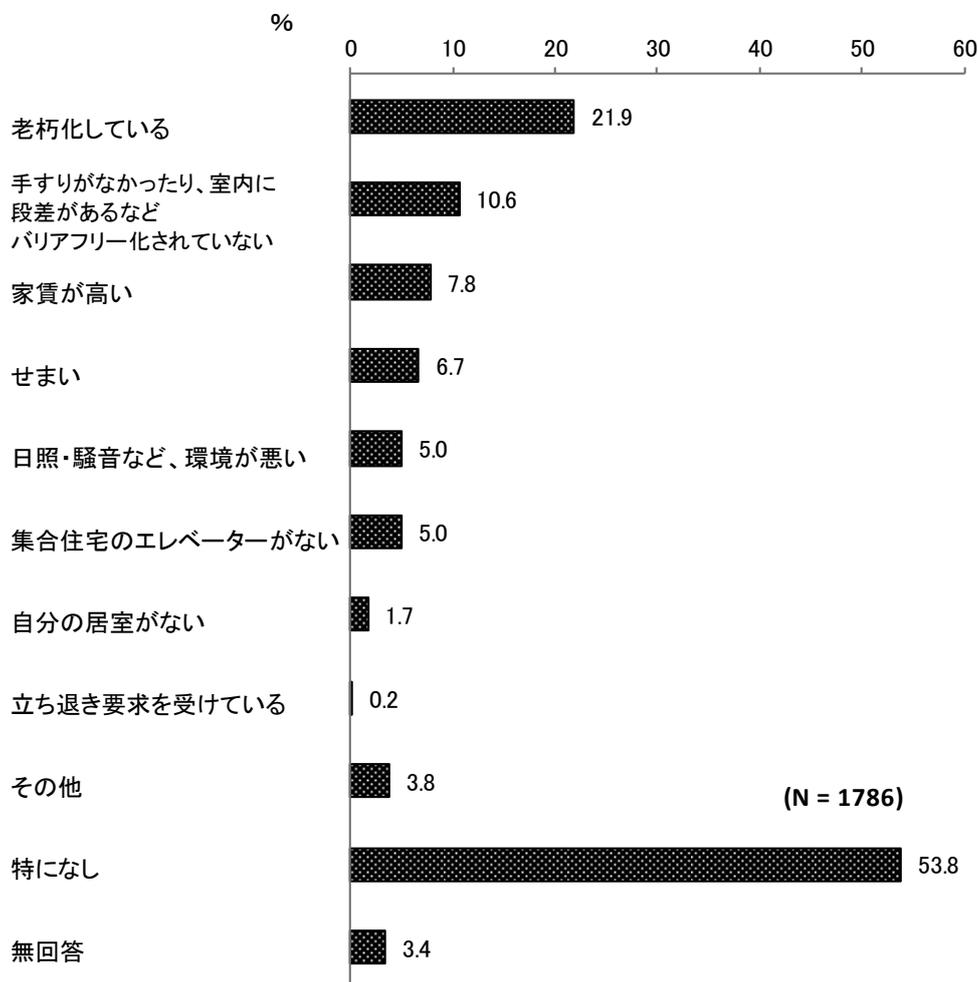
(2) 困りごと・住み替え (問 10・問 11・問 11-1)

◇現在の住まいで困っていることは、「特になし」が53.8%で最も高くなっており、半数以上が今のところ住居に不便を感じていない。困っていることは、「老朽化している」が21.9%で最も高く、次いで「手すりがなかったり、室内に段差があるなどバリアフリー化されていない」が10.6%となっている。【図表 3-1-3】

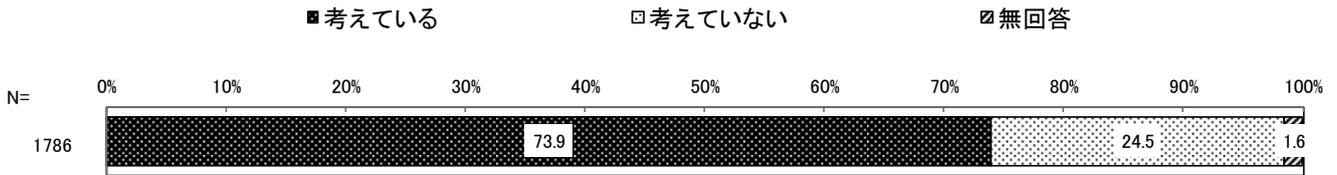
◇現在の住まいに亡くなるまで住み続ける意向は、「考えている」が73.9%、「考えていない」が24.5%となっている。【図表 3-1-4】

◇現在の住まいに亡くなるまで住み続ける意向のない人が住み替え時に重視することは、「周囲の状況（交通の便がよい）」が57.9%で最も高く、次いで「利便性が高い」が51.5%となっている。【図表 3-1-5】

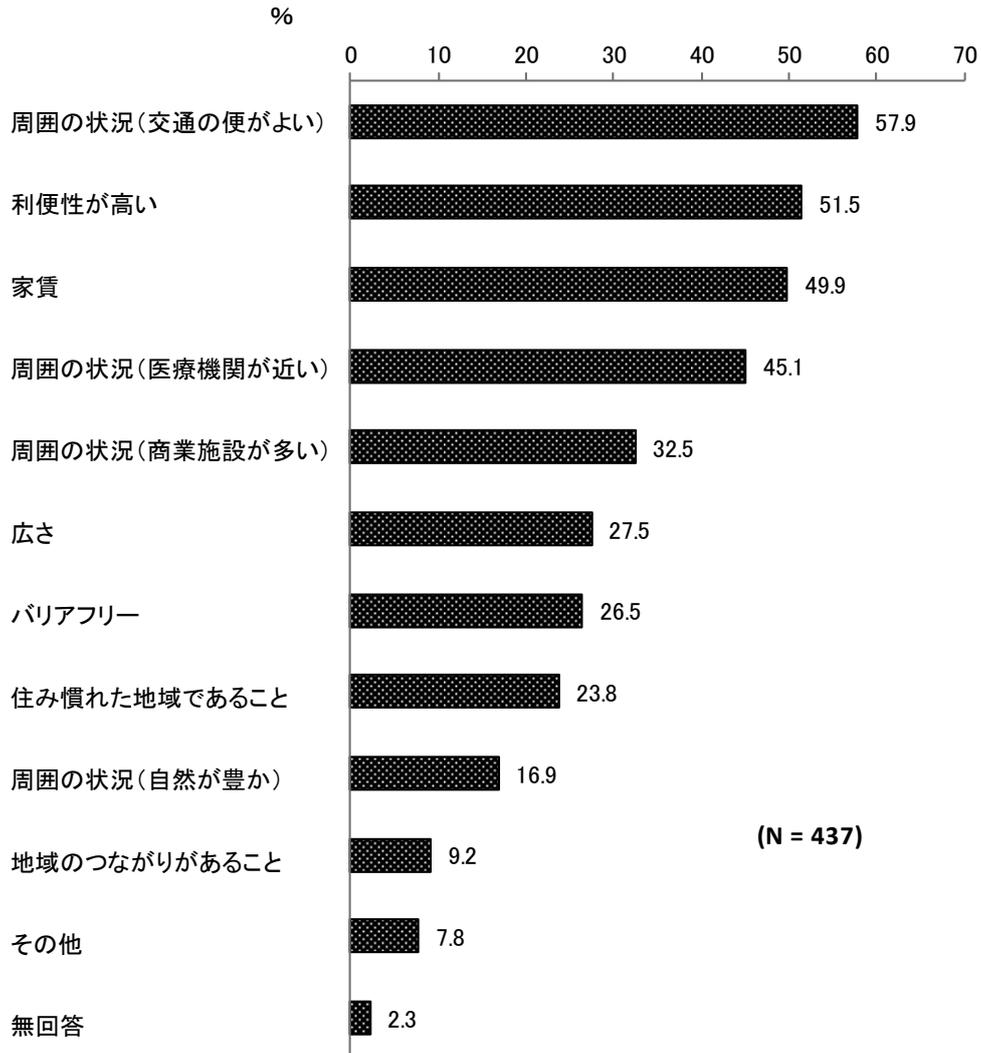
【図表 3-1-3 住まいで困っていること [複数回答]】



【図表 3-1-4 現在の住まいに亡くなるまで住み続ける意向】



【図表 3-1-5 住み替え時に重視すること〔複数回答〕】



2. 健康状態

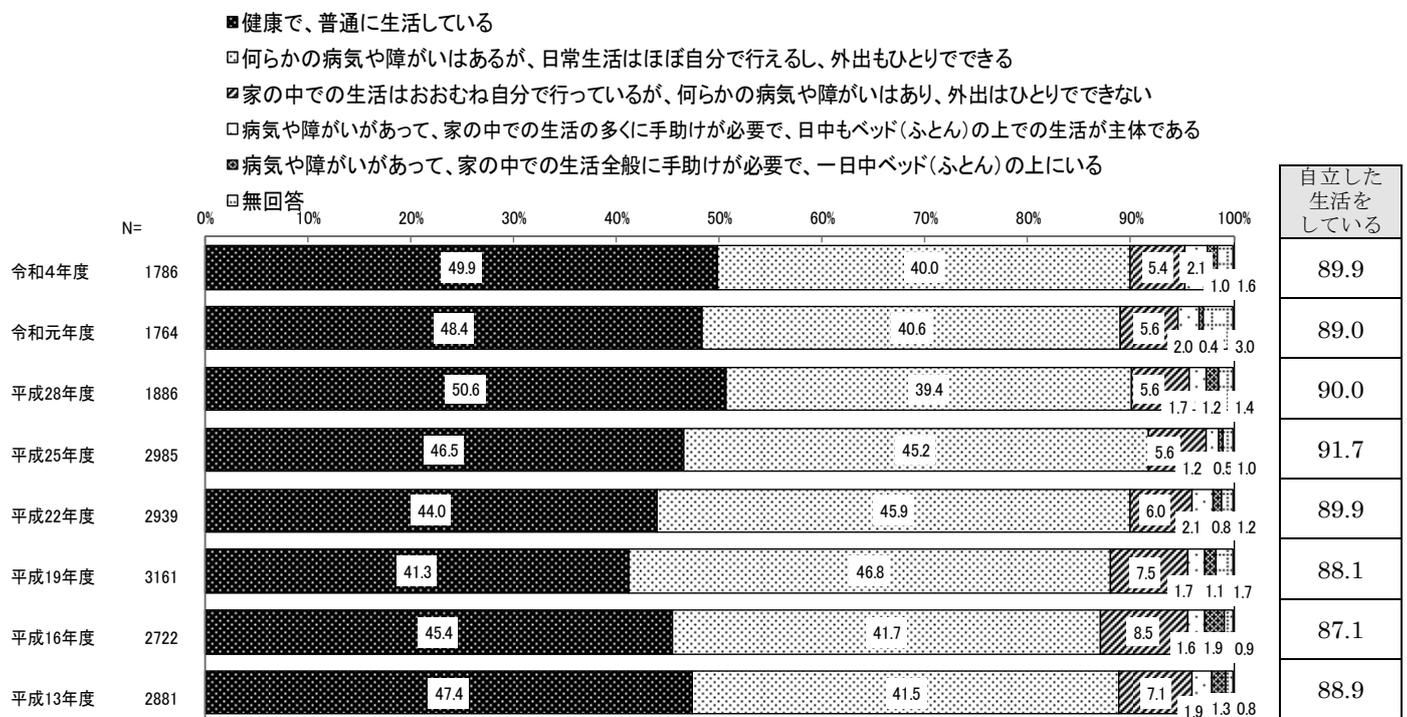
(1) 健康状態 (問13)

◇現在の健康状態は、「健康で、普通に生活している」の49.9%と、「何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分でできるし、外出もひとりで行える」の40.0%を合わせた『自立した生活をしている』が89.9%となっている。【図表3-2-1】

◇過去の調査結果と比較すると、平成19年度調査以降増加していた「健康で、普通に生活している」は、令和元年度調査ではわずかに減少したが、今回やや増加する結果となった。ただし増加幅はわずかであり、前回調査と比べて大きな変化はみられない。【図表3-2-1】

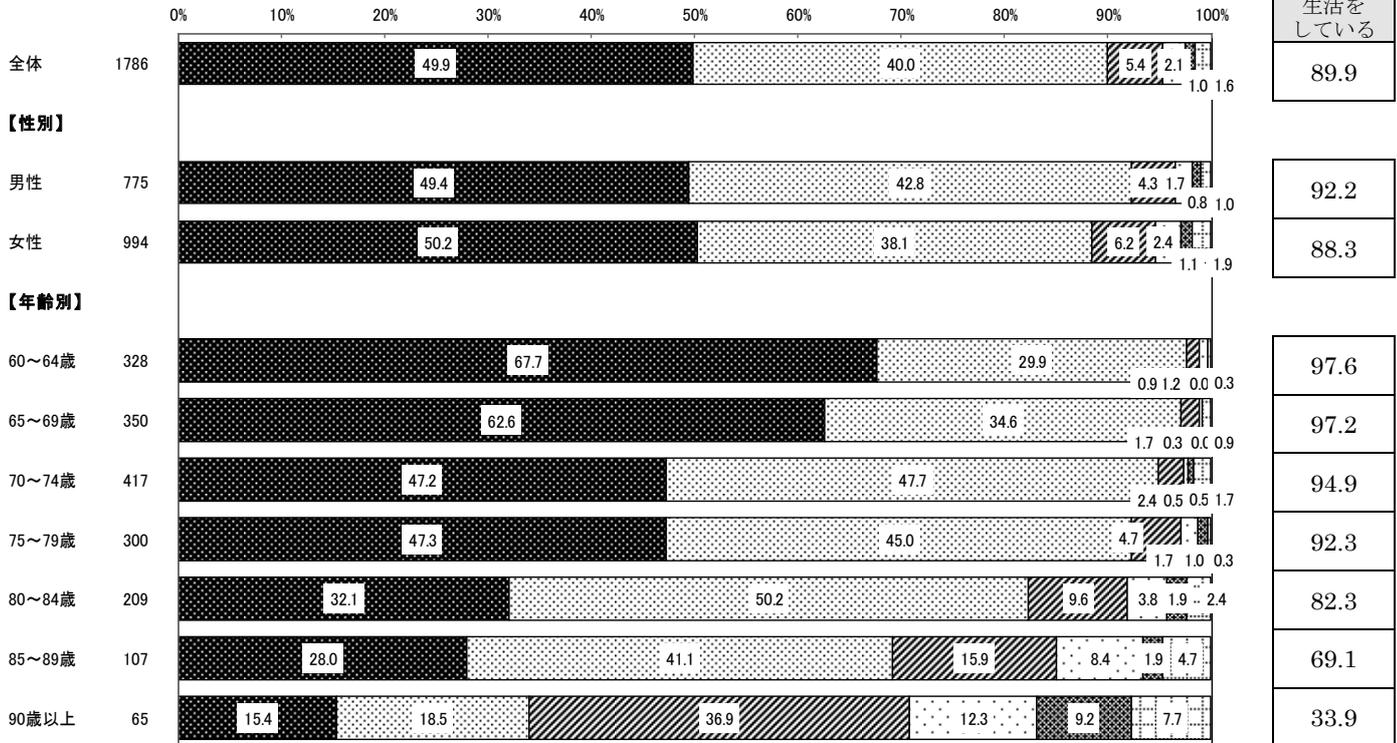
◇年齢別にみると、『自立した生活をしている』は79歳以下では9割以上、80～84歳では8割以上、85～89歳では約7割、90歳以上では約3割と、年齢が高くなるほど割合は減少している。【図表3-2-2】

【図表3-2-1 現在の健康状態 (経年比較)】



【図表 3-2-2 現在の健康状態（性別・年齢別）】

- 健康で、普通に生活している
- ▣ 何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりできる
- ▨ 家の中での生活はおおむね自分でやっているが、何らかの病気や障がいがあり、外出はひとりできない
- 病気や障がいがあるが、家の中での生活の多くに手助けが必要で、日中もベッド(ふとん)の上での生活が主体である
- ▩ 病気や障がいがあるが、家の中での生活全般に手助けが必要で、一日中ベッド(ふとん)の上にいる
- 無回答



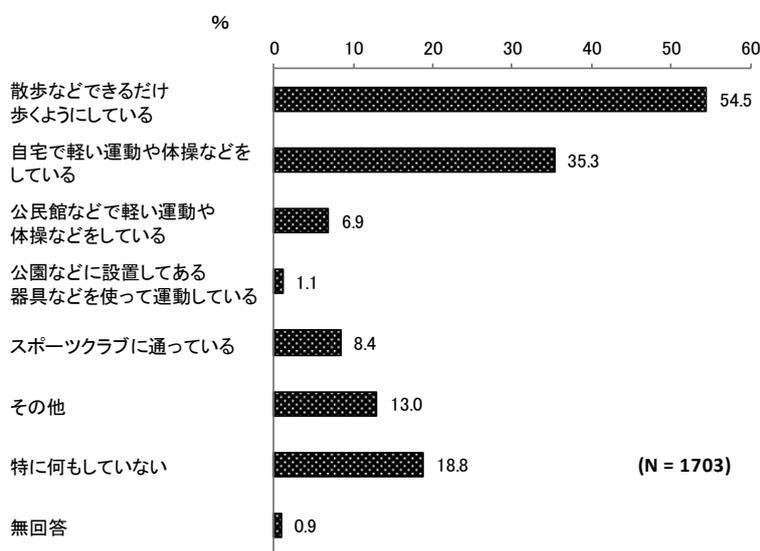
(2) 健康づくりや介護予防 (問 13-1・問 13-5・問 29)

◇運動習慣の状況は、「散歩などできるだけ歩くようにしている」が54.5%で最も高く、次いで「自宅で軽い運動や体操などを行っている」が35.3%、「特に何もしていない」が18.8%となっている。【図表 3-2-3】

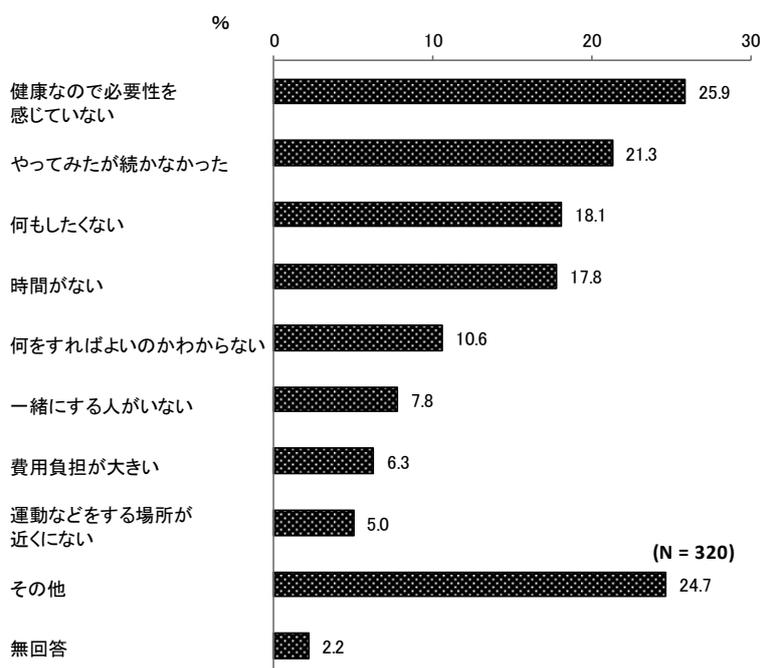
◇運動を何もしていない理由としては、「健康なので必要性を感じていない」が25.9%で最も高く、次いで「やってみたが続かなかった」が21.3%、「何もしたくない」が18.1%となっている。【図表 3-2-4】

◇健康づくりや介護予防で福岡市に力を入れてほしいことは、「認知症予防についての取組み」が47.4%で最も高く、次いで「体力や筋力の維持・向上のための取組み」が41.3%、「生きがいつくりのための取組み」が38.7%となっている。【図表 3-2-5】

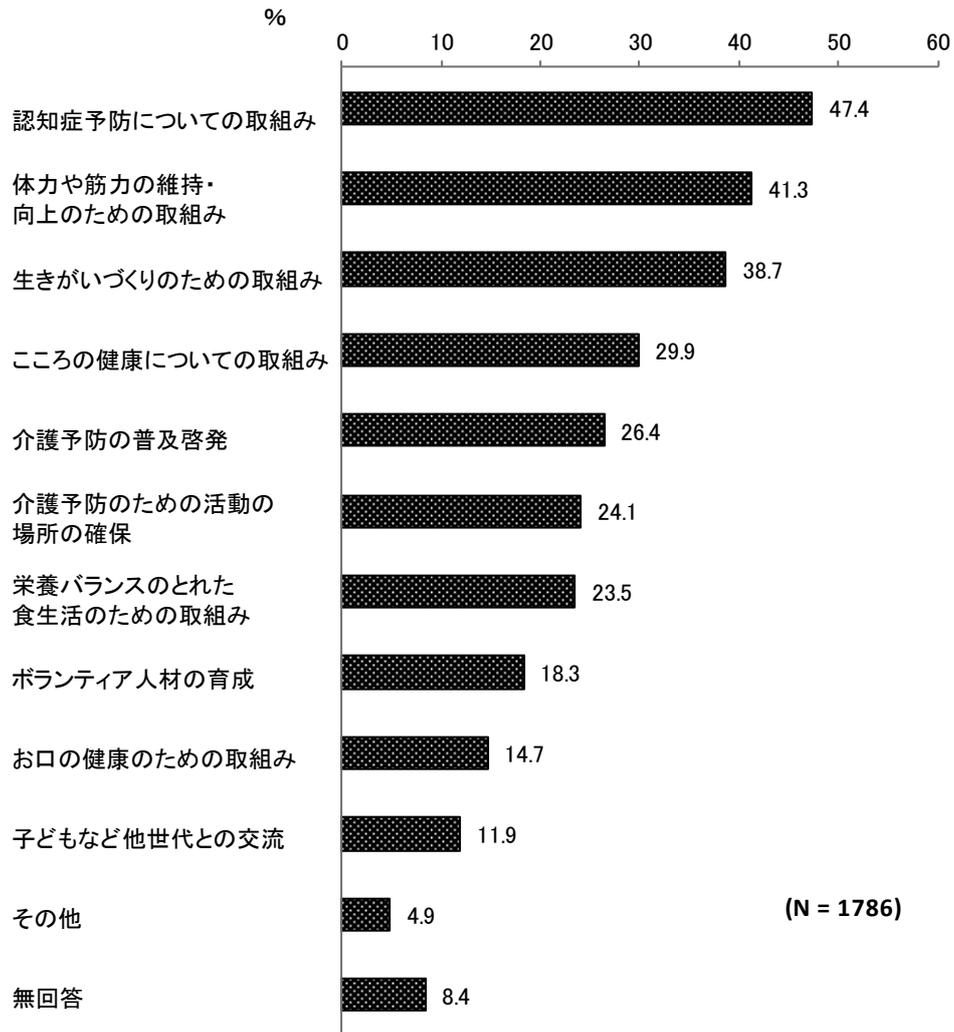
【図表 3-2-3 運動習慣の状況[複数回答]】



【図表 3-2-4 運動していない理由[複数回答]】



【図表 3-2-5 健康づくりや介護予防で福岡市に力を入れてほしいこと〔複数回答〕】

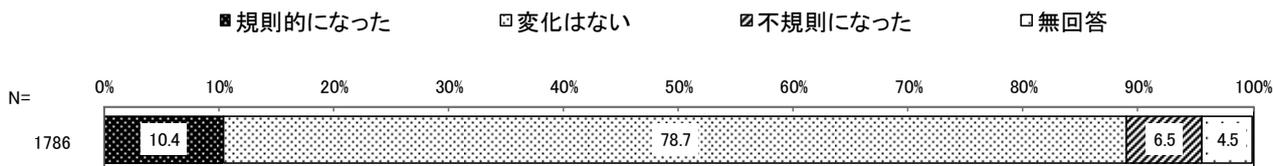


(3) 生活・体調等の変化 (問 16)

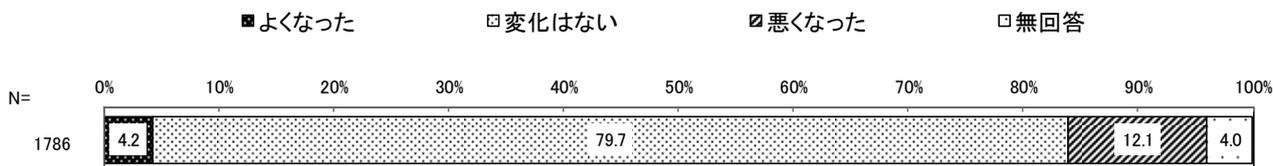
◇直近2年間(新型コロナウイルス感染拡大後)で感じた生活・体調の変化について、各項目において「変化はない」が63.0%から82.6%と最も高くなっている。

◇感じた変化が大きかった主な項目として、運動については、「体を動かすことが減った」が22.3%、歩く速度については、「遅くなった」が28.3%、交流については、「家族や友人などとの交流の頻度が減った」が22.6%となっている。

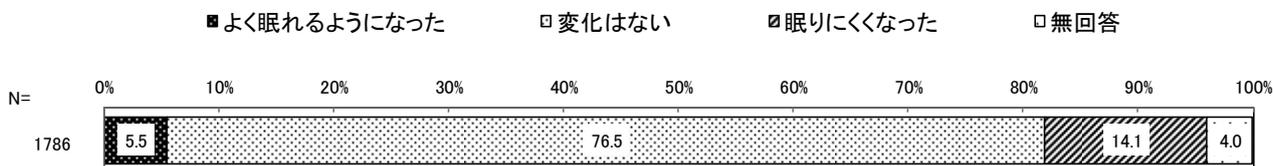
【図表 3-2-6 直近2年間の生活・体調の変化/生活リズム】



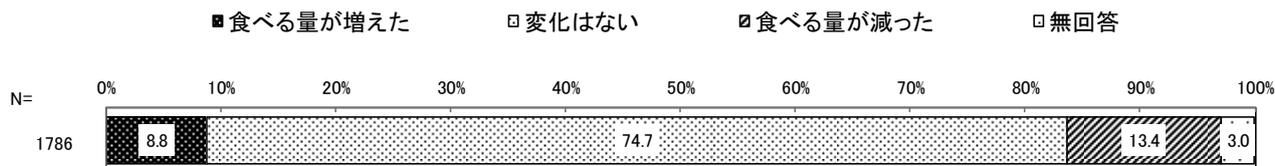
【図表 3-2-7 直近2年間の生活・体調の変化/体調】



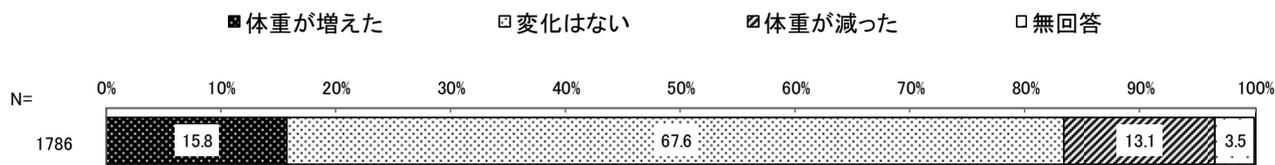
【図表 3-2-8 直近2年間の生活・体調の変化/睡眠】



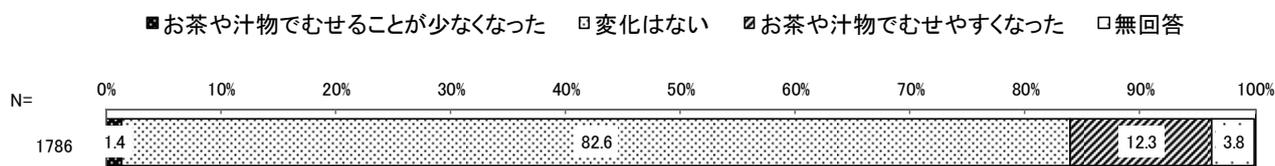
【図表 3-2-9 直近 2 年間の生活・体調の変化/食べる量】



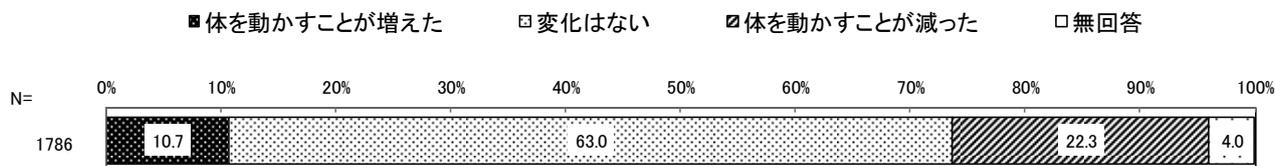
【図表 3-2-10 直近 2 年間の生活・体調の変化/体重】



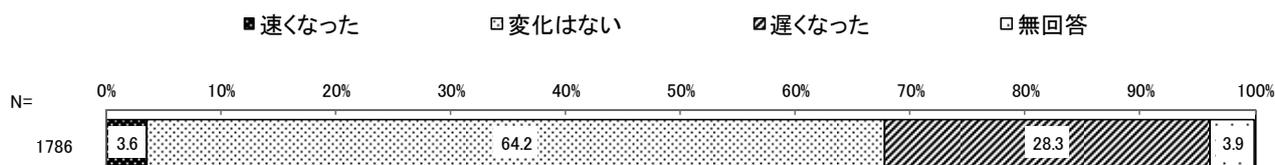
【図表 3-2-11 直近 2 年間の生活・体調の変化/口腔（飲み込み）】



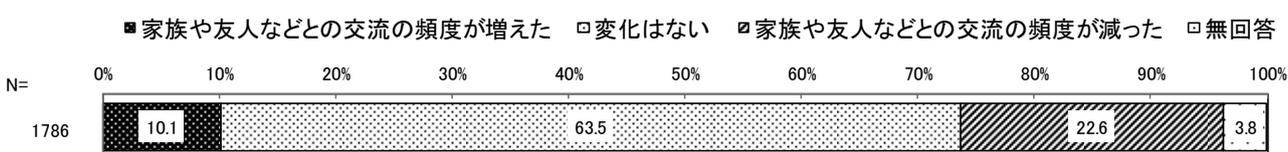
【図表 3-2-12 直近 2 年間の生活・体調の変化/運動】



【図表 3-2-13 直近 2 年間の生活・体調の変化/歩く速度】



【図表 3-2-14 直近 2 年間の生活・体調の変化/交流】



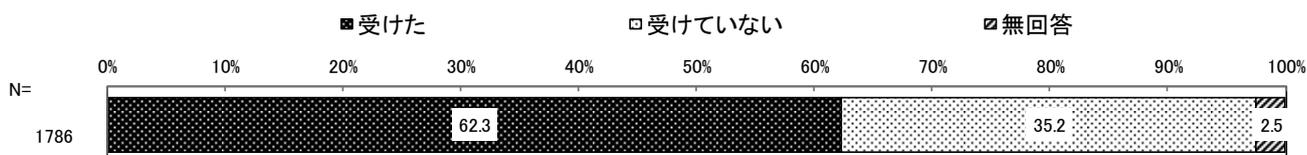
(4) 口腔 (問 17・問 18・問 22)

◇過去 1 年間の歯科の定期健診受診の有無は、「受けた」が 62.3%、「受けていない」が 35.2%となっている。【図表 3-2-15】

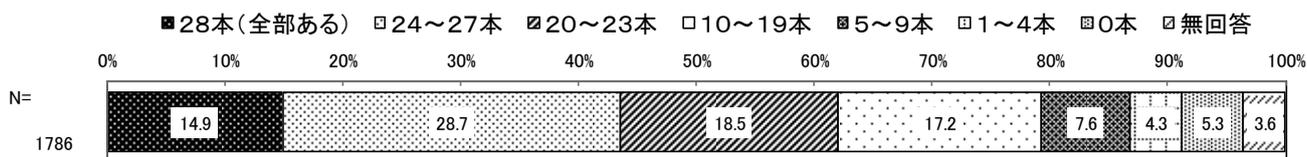
◇歯の本数(さし歯を含む)は、「24~27本」が 28.7%で最も高く、次いで「20~23本」が 18.5%、「10~19本」が 17.2%となっている。【図表 3-2-16】

◇歯みがきの頻度は、「1日2回」が 49.3%で最も高く、次いで「1日3回以上」が 25.4%、「1日1回」が 20.2%となっている。【図表 3-2-17】

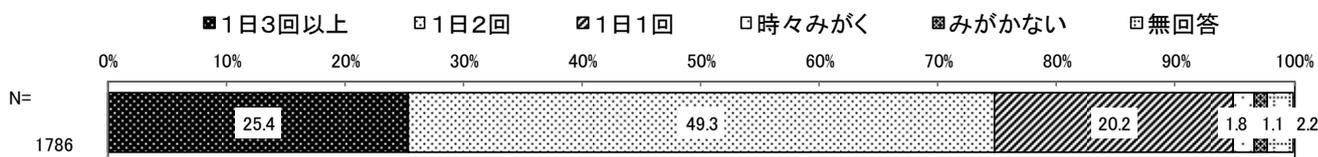
【図表 3-2-15 歯科の定期健診受診の有無】



【図表 3-2-16 歯の本数】



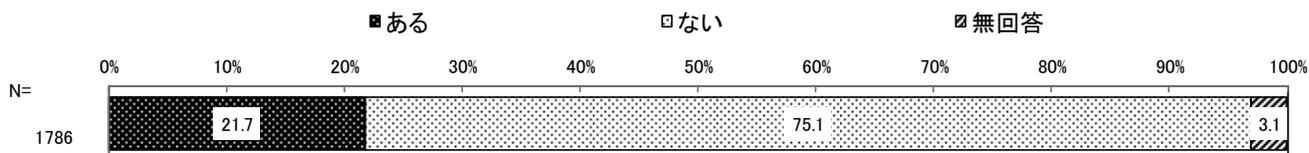
【図表 3-2-17 歯みがきの頻度】



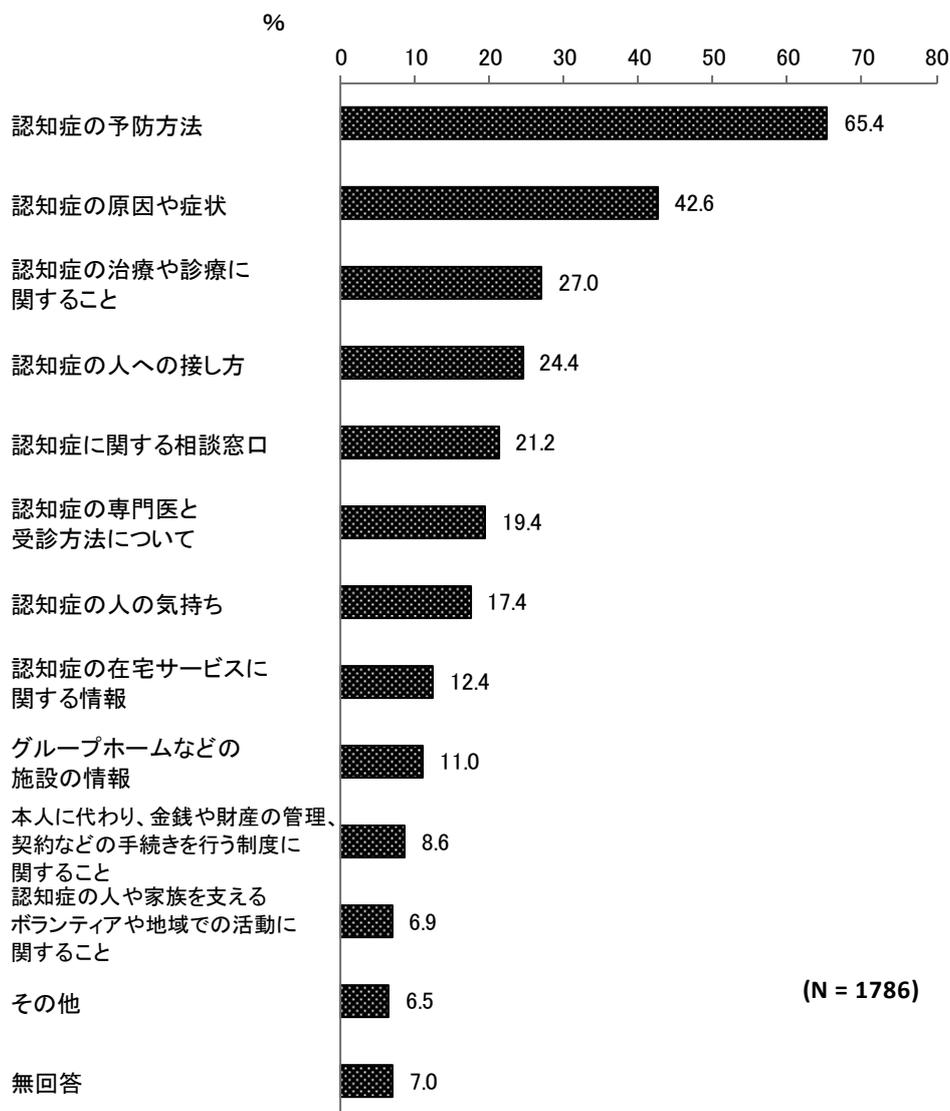
(5) 認知症 (問 24・問 26・問 28)

◇認知症への不安は、「ある」が21.7%、「ない」が75.1%となっている。【図表 3-2-18】
 ◇認知症に関して知りたい内容は、「認知症の予防方法」が65.4%で最も高く、次いで「認知症の原因や症状」が42.6%、「認知症の治療や診療に関すること」が27.0%となっている。【図表 3-2-19】
 ◇福岡市が認知症の人にとって暮らし続けることができるまちであるかの認識は、「そう思う」が48.9%、「そう思わない」が36.6%となっている。【図表 3-2-20】

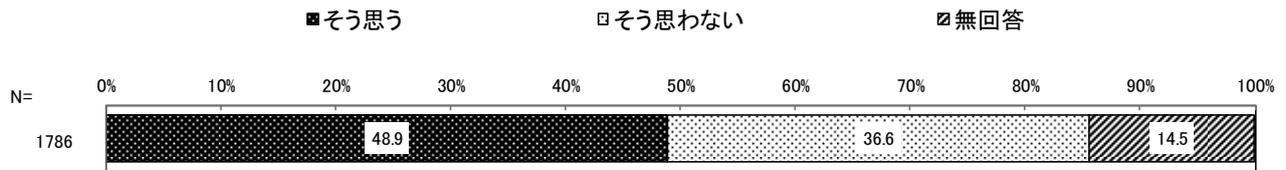
【図表 3-2-18 認知症の不安の有無】



【図表 3-2-19 認知症に関して知りたい内容[複数回答]】



【図表 3-2-20 福岡市が認知症の人にとって暮らし続けることができるまちであるかの認識】

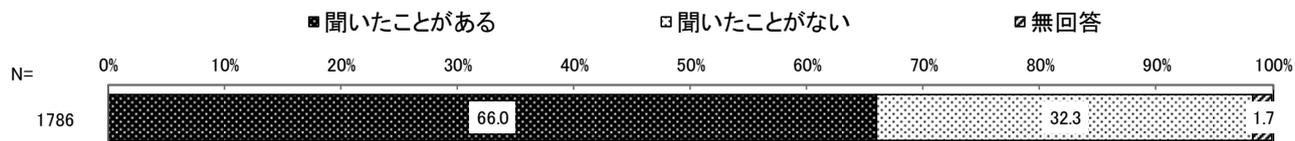


3. 医療・福祉

(1) いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）（問 30）

◇いきいきセンターふくおかについて、「聞いたことがある」が66.0%、「聞いたことがない」が32.3%となっている。【図表 3-3-1】

【図表 3-3-1 いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）の認知度】



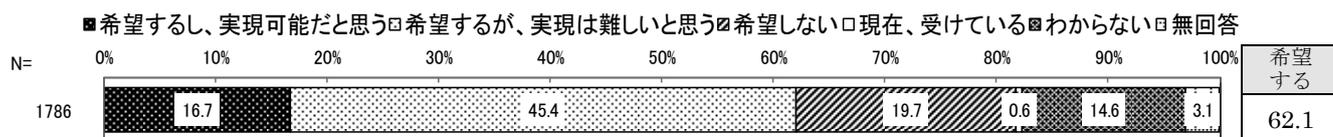
(2) 在宅医療（問 33・問 35・問 35-1・問 36）

◇かかりつけ医の有無は、「いる」が80.0%、「いない」が18.1%となっている。【図表 3-3-2】
 ◇在宅医療の希望は、「希望するし、実現可能だと思う」16.7%と「希望するが、実現は難しいと思う」45.4%を合わせた『希望する』が62.1%、「希望しない」が19.7%となっている。【図表 3-3-3】
 ◇在宅医療を希望しないまたは実現が難しい理由は、「家族に負担をかけるから」が38.3%で最も高く、次いで「介護してくれる家族がないから」が9.2%となっている。【図表 3-3-4】
 ◇最期を迎えたい場所は、「医療機関」が32.2%で最も高く、次いで「自宅（親族の家を含む）」が28.9%となっている。【図表 3-3-5】

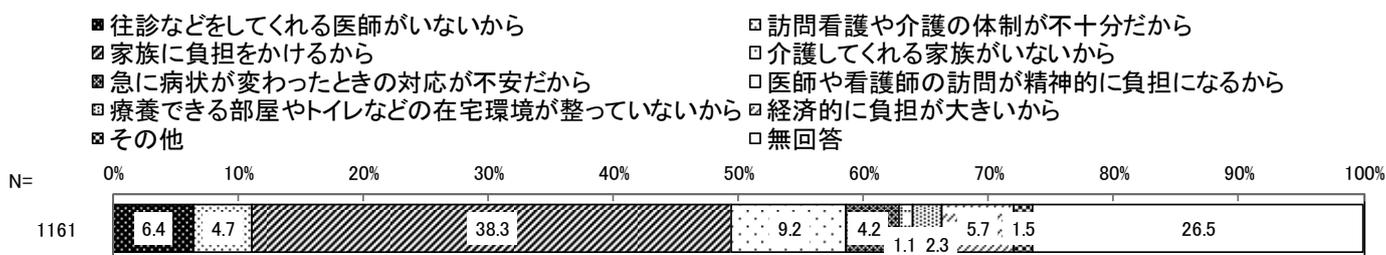
【図表 3-3-2 かかりつけ医の有無】



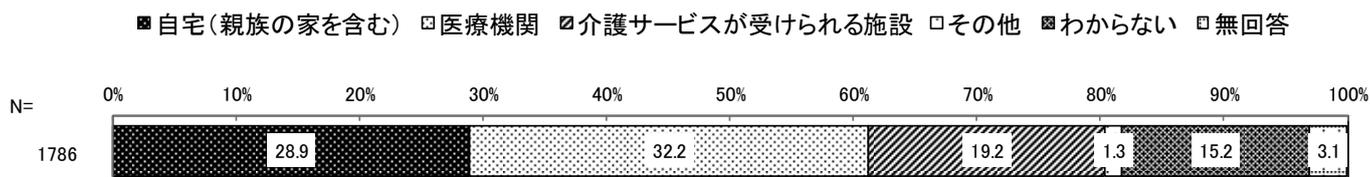
【図表 3-3-3 在宅医療の希望・実現可能性】



【図表 3-3-4 在宅医療を希望しない・実現が難しい理由】



【図表 3-3-5 最期を迎えたい場所】

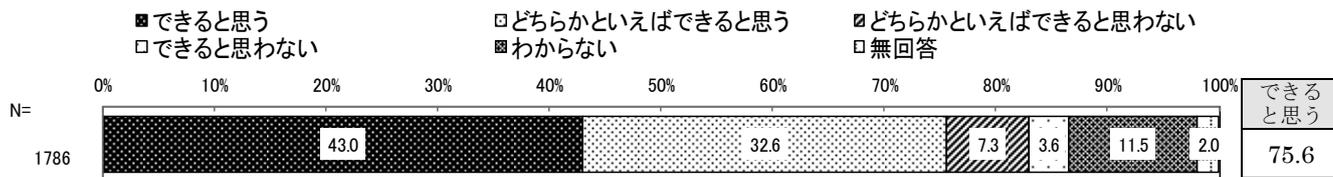


(3) 今後の介護意向 (問 37・問 38)

◇これから年齢を重ねても、住み慣れた地域で暮らし続けることができると思うかは、「できると思う」が43.0%、「どちらかといえばできると思う」が32.6%で、これらを合わせた『できると思う』が75.6%となっている。【図表 3-3-6】

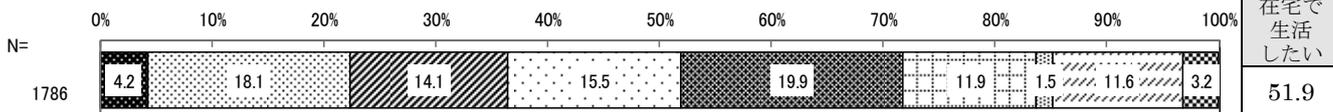
◇介護が必要になったときの意向は、「在宅で、できるかぎり家族だけでの介護を受けたい」、「在宅で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい」、「在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい」、「施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で生活したい」を合わせた『在宅で生活したい』が51.9%と半数を超えている。【図表 3-3-7】

【図表 3-3-6 住み慣れた地域で暮らし続けることができると思うか】



【図表 3-3-7 今後の介護の受け方の意向】

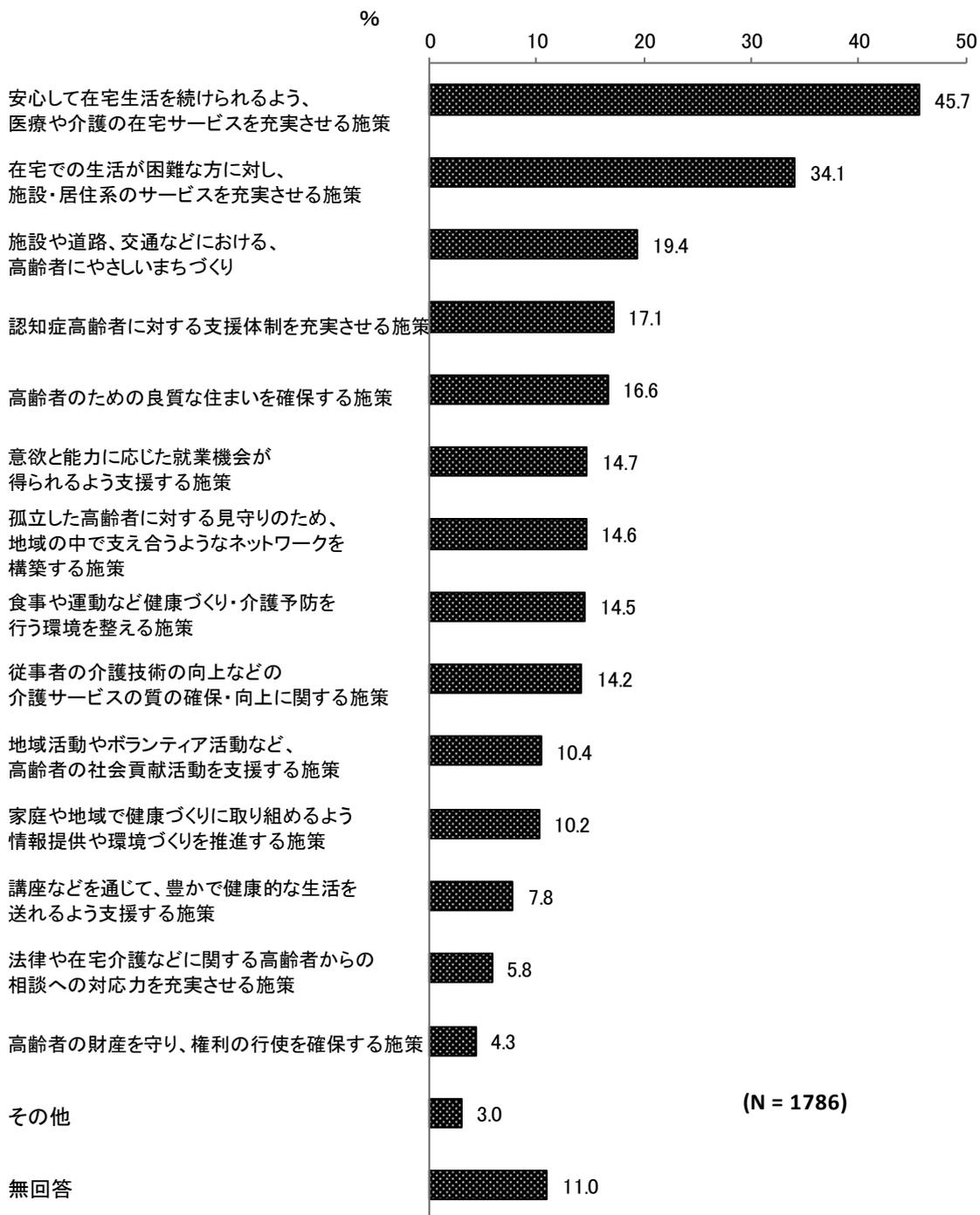
- 在宅で、できるかぎり家族だけでの介護を受けたい
- 在宅で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい
- 在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい
- 施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で生活したい
- 住み慣れた地域の施設に入所したい
- 住み慣れた地域でなくてもよいので施設に入所したい
- その他
- わからない
- 無回答



(4) 行政への要望 (問 41)

◇行政に力をいれてほしい高齢者に関する施策の内容は、「安心して在宅生活を続けられるよう、医療や介護の在宅サービスを充実させる施策」が45.7%で最も高く、次いで「在宅での生活が困難な方に対し、施設・居住系のサービスを充実させる施策」が34.1%、「施設や道路、交通などにおける、高齢者にやさしいまちづくり」が19.4%となっている。【図表 3-3-8】

【図表 3-3-8 行政に力を入れてほしい高齢者に関する施策の内容[複数回答]】



第4章 介護サービス調査共通設問

「在宅サービス利用者調査」「在宅サービス未利用者調査」「施設等サービス利用者調査」の3つの調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるよう「共通設問」として掲載した。

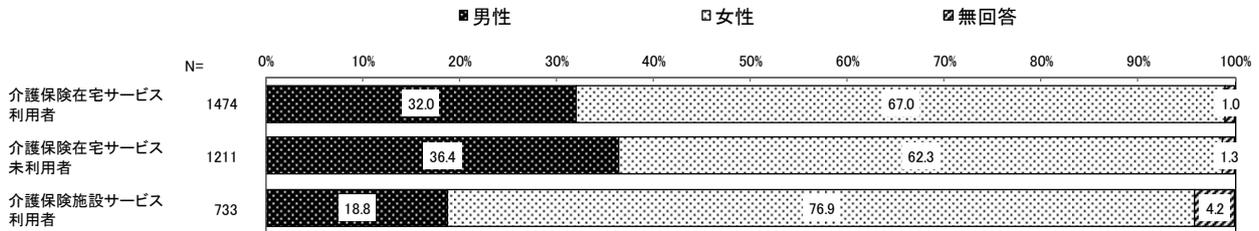
1. 回答者の属性

(1) 性別・年齢（利用者：問2・問3、未利用者：問2・問3、施設：問2・問3）

◇回答者の性別は、在宅サービス利用者では「男性」が32.0%、「女性」が67.0%、在宅サービス未利用者では「男性」が36.4%、「女性」が62.3%、施設等サービス利用者では「男性」が18.8%、「女性」が76.9%となっている。【図表4-1-1】

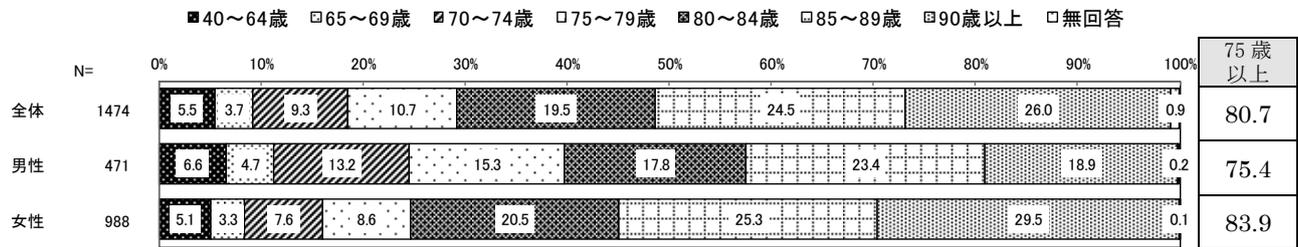
◇75歳以上の後期高齢者の割合は、在宅サービス利用者では80.7%、在宅サービス未利用者では85.5%、施設等サービス利用者では88.8%となっている。【図表4-1-2】

【図表4-1-1 性別】

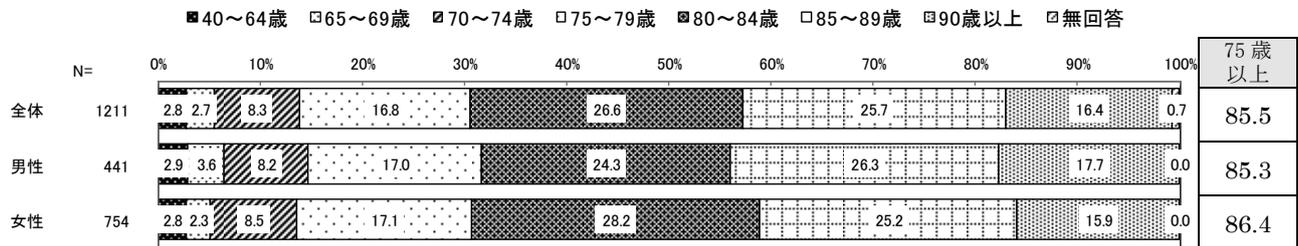


【図表4-1-2 年齢（性別）】

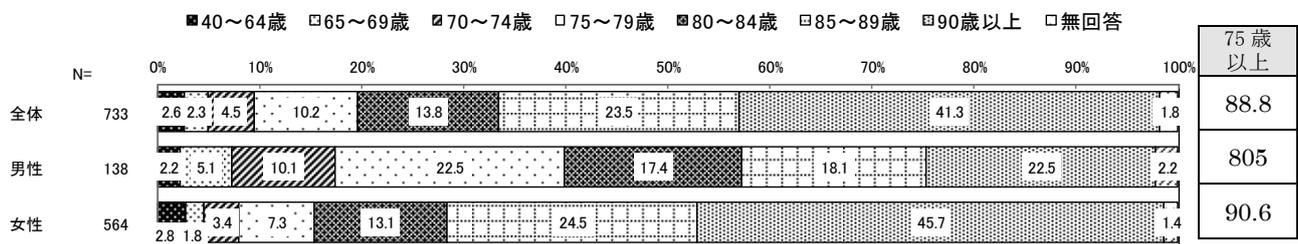
在宅サービス利用者



在宅サービス未利用者



施設等サービス利用者

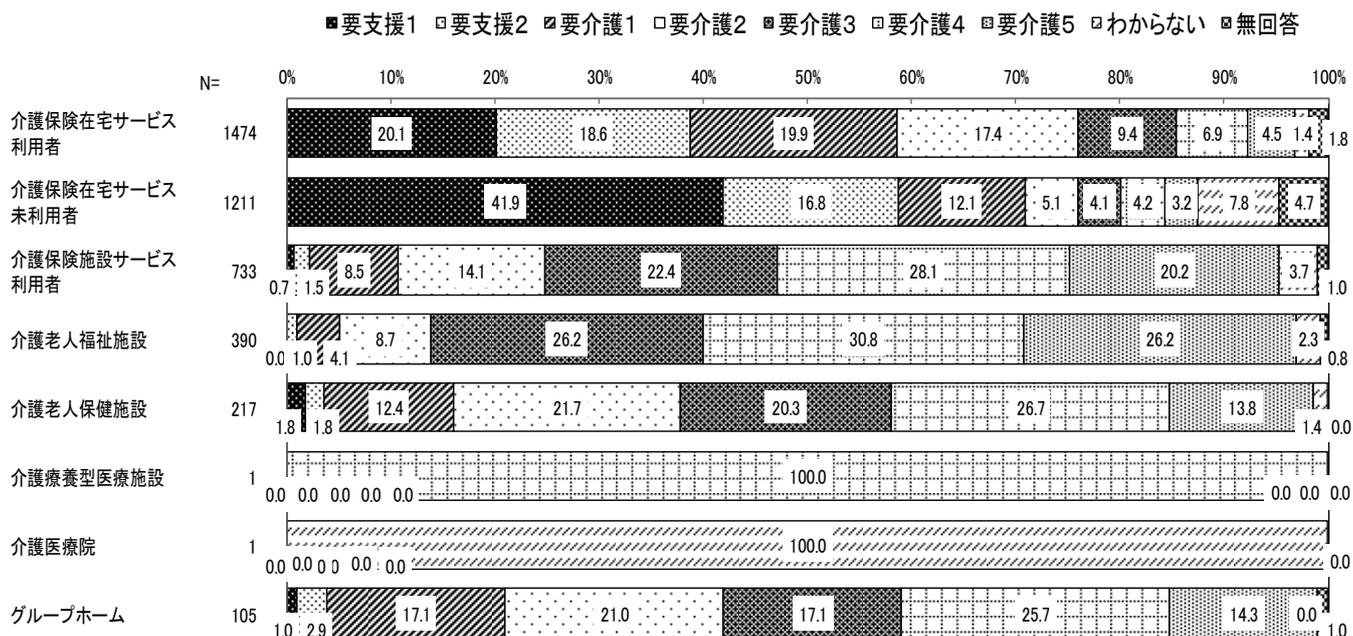


(2) 要介護度（利用者：問7、未利用者：問7、施設：問4）

◇回答者の要介護度は、在宅サービス利用者と在宅サービス未利用者ともに要介護度が軽い人が半数を超えており、「要支援1」「要支援2」「要介護1」を合わせた『要介護1以下』が、在宅サービス利用者では58.6%、在宅サービス未利用者では70.8%となっている。【図表4-1-3】

◇施設等サービス利用者では要介護度が重い人が多く、「要介護3」「要介護4」「要介護5」を合わせた『要介護3以上』が70.7%となっている。施設別にみると、介護老人福祉施設の『要介護3以上』は、83.2%となっている。【図表4-1-3】

【図表 4-1-3 要介護度（施設別）】



	要介護1以下	要介護3以上
介護保険在宅サービス利用者	58.6	20.8
介護保険在宅サービス未利用者	70.8	11.5
介護保険施設サービス利用者	10.7	70.7
(施設別) 介護老人福祉施設	5.1	83.2
(施設別) 介護老人保健施設	16.0	60.8
(施設別) 介護療養型医療施設	0.0	100.0
(施設別) 介護医療院	0.0	0.0
(施設別) グループホーム	21.0	57.1

2. 在宅医療

(利用者：問 19・問 22・問 22-1・問 24、未利用者：問 24・問 27・問 27-1・問 28、施設：問 13)

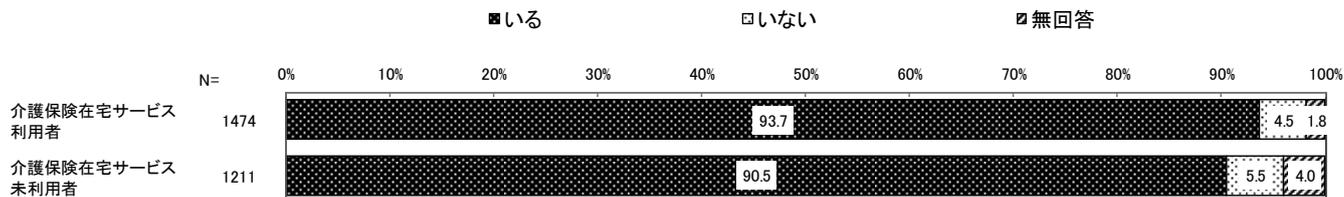
◇かかりつけ医の有無は、「いる」が在宅サービス利用者では 93.7%、在宅サービス未利用者では 90.5%となっている。【図表 4-2-1】

◇在宅医療の希望は、「希望するし、実現可能だと思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」を合わせた『希望する』が、在宅サービス利用者では 44.0%、在宅サービス未利用者では 42.6%となっている。また、「希望しない」が在宅サービス利用者では 21.8%、在宅サービス未利用者では 18.2%となっている。【図表 4-2-2】

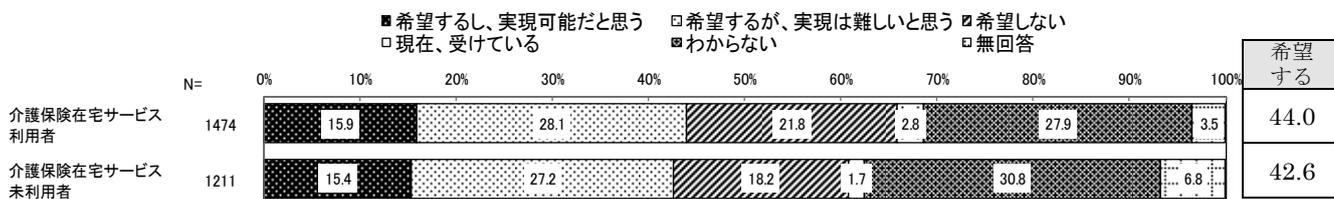
◇在宅医療を希望しないまたは実現が難しいと思う理由は、「家族に負担をかけるから」が在宅サービス利用者で 29.4%、在宅サービス未利用者で 27.7%とそれぞれ最も高く、次いで在宅サービス利用者では「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が 13.1%、在宅サービス未利用者では「介護をしてくれる家族がないから」が 13.3%となっている。【図表 4-2-3】

◇最期を迎えたい場所は、「医療機関」が在宅サービス利用者で 30.3%、在宅サービス未利用者で 36.9%とそれぞれ最も高く、次いで「自宅（家族や親族の家を含む）」が在宅サービス利用者で 29.2%、在宅サービス未利用者で 25.9%となっている。施設等サービス利用者では、「現在、入っている施設」が 40.5%で最も高くなっている。【図表 4-2-4】

【図表 4-2-1 かかりつけ医の有無】

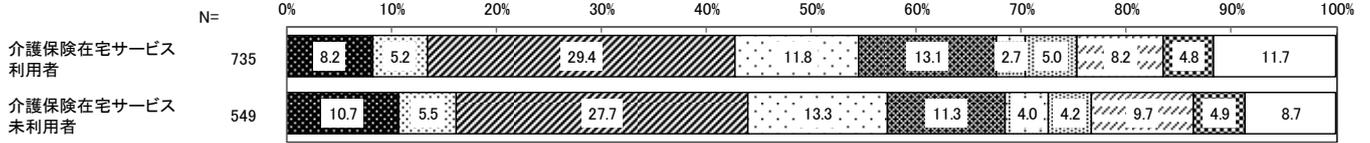


【図表 4-2-2 在宅医療の希望・実現可能性】



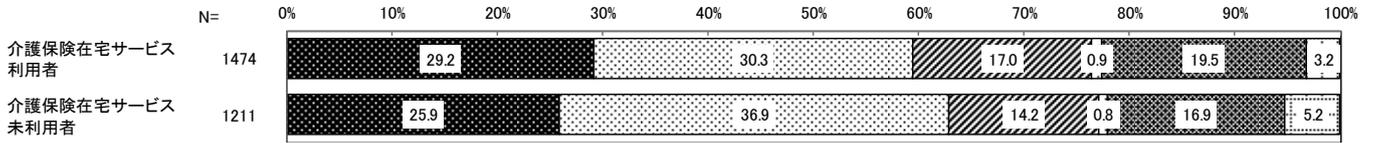
【図表 4-2-3 在宅医療を希望しない・実現が難しい理由】

- 往診などしてくれる医師がないから
- 家族に負担をかけるから
- 急に病状が変わったときの対応が不安だから
- 療養できる部屋やトイレなどの住宅環境が整っていないから
- その他
- 訪問看護や介護の体制が不十分だから
- 介護してくれる家族がないから
- 医師や看護師の訪問が精神的負担になるから
- 経済的に負担が大きいから
- 無回答

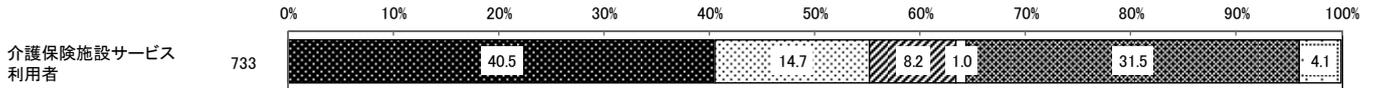


【図表 4-2-4 最期を迎えたい場所】

- 自宅(家族や親族の家を含む)
- 医療機関
- 介護サービスが受けられる施設
- その他
- わからない
- 無回答



- 現在、入っている施設
- 医療機関
- 自宅(家族や親族の家を含む)
- その他
- わからない
- 無回答



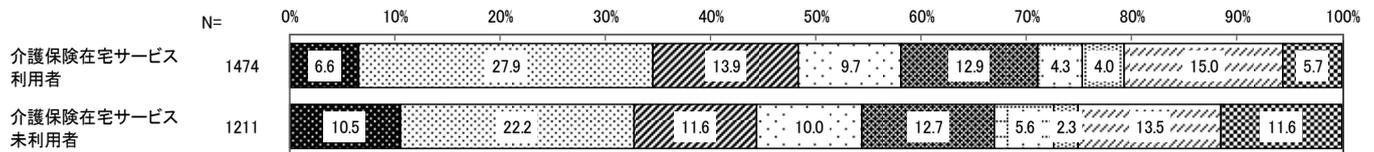
3. 今後の介護の受け方

(利用者：問 23、未利用者：問 34)

◇今後の介護の受け方は、「在宅で、できるかぎり家族や親族だけでの介護を受けたい」「在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい」「在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい」「施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で生活したい」を合わせた『在宅で生活したい』の割合が在宅サービス利用者では58.1%、在宅サービス未利用者では54.3%となっている。【図表 4-3-1】

【図表 4-3-1 今後の介護の受け方（本人）】

- 在宅で、できるかぎり家族や親族だけでの介護を受けたい
- 在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい
- 在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい
- 施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で生活したい
- 住み慣れた地域の施設に入所したい
- 住み慣れた地域でなくてもよいので施設に入所したい
- その他
- わからない
- 無回答



	在宅で生活したい
介護保険在宅サービス利用者	58.1
介護保険在宅サービス未利用者	54.3

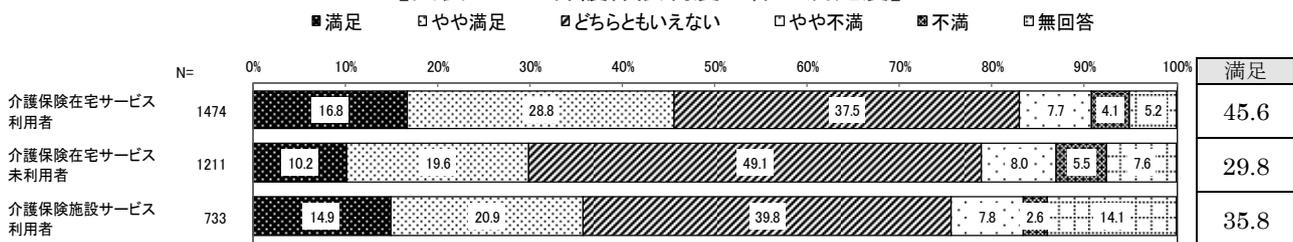
4. 介護保険制度

(利用者：問 28・問 29、未利用者：問 29・問 30、施設：問 21・問 22)

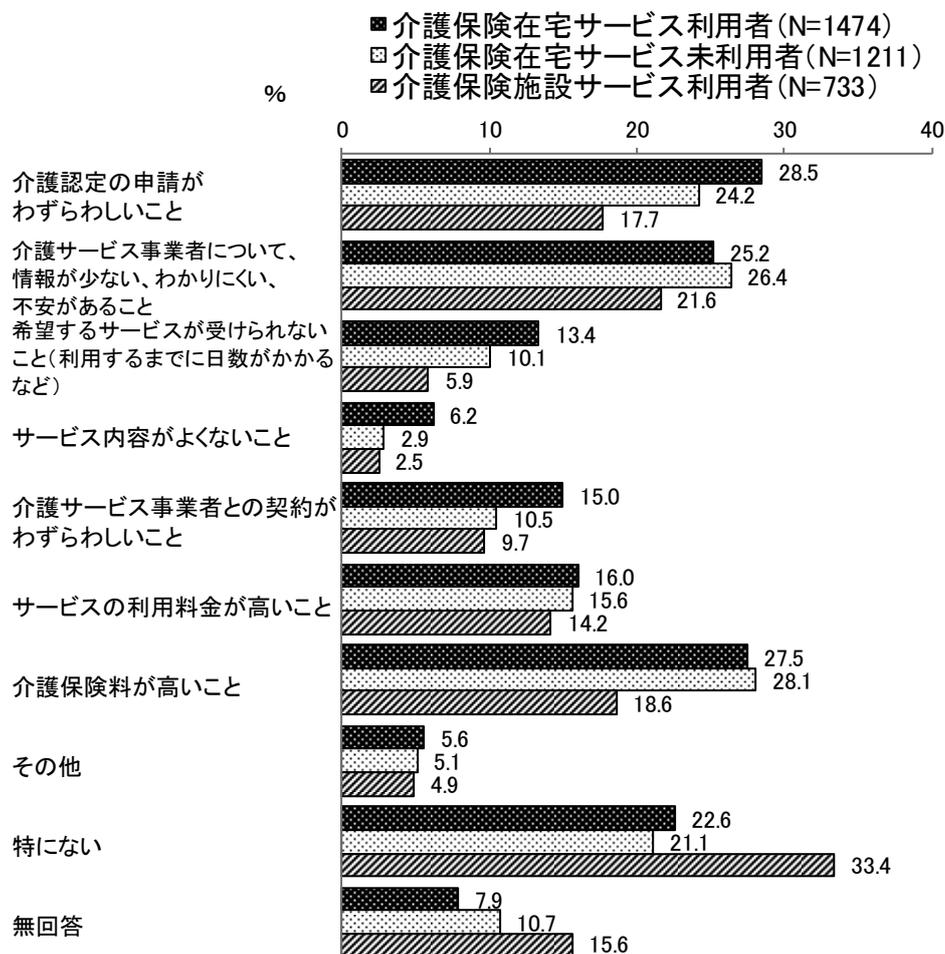
◇介護保険制度全体の満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が在宅サービス利用者では45.6%、在宅サービス未利用者が29.8%、施設等サービス利用者では35.8%となっている。【図表 4-4-1】

◇介護保険制度で不満に思うことは、在宅サービス利用者では「介護認定の申請がわずらわしいこと」が28.5%、在宅サービス未利用者では「介護保険料が高いこと」が28.1%、施設等サービス利用者では「特にない」が33.4%で、それぞれ最も高くなっている。【図表 4-4-2】

【図表 4-4-1 介護保険制度全体の満足度】



【図表 4-4-2 介護保険制度で不満に思うこと [複数回答]】



5. 介護者

「在宅サービス利用者調査」「在宅サービス未利用者調査」の2調査において、主に介護をしている方の状況も回答してもらった。

(1) 介護者の属性

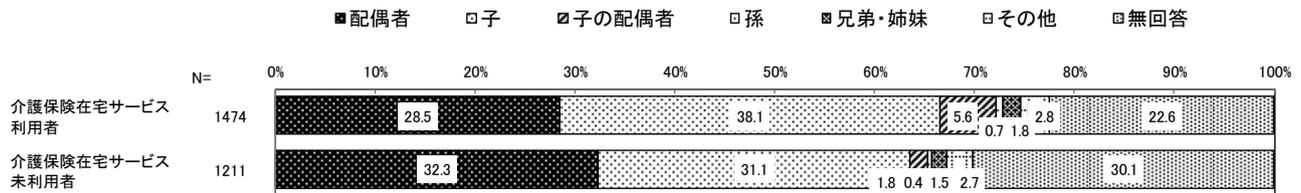
(利用者：問 36・問 37・問 38・問 39、未利用者：問 35・問 36・問 37・問 38)

◇主な介護者の続柄は、在宅サービス利用者では「子」が38.1%、在宅サービス未利用者では「配偶者」が32.3%で、それぞれ最も高くなっている。【図表 4-5-1】

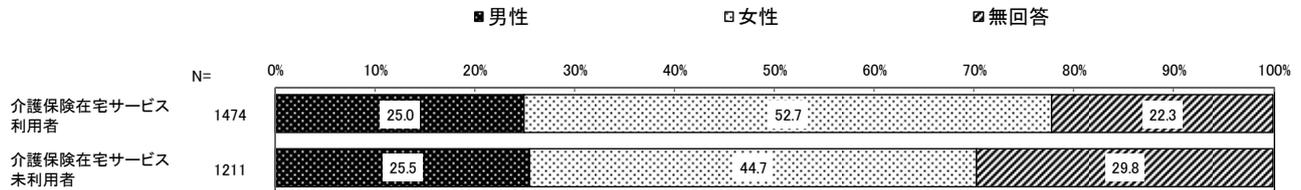
◇主な介護者の同居状況は、在宅サービス利用者では「同居」が57.0%、「別居」が20.8%、在宅サービス未利用者では「同居」が51.1%、「別居」が18.6%となっている。【図表 4-5-3】

◇主な介護者の年齢は、『60代以上』が、在宅サービス利用者では57.4%、在宅サービス未利用者では49.9%となっており、ともに約5割となっている。【図表 4-5-4】

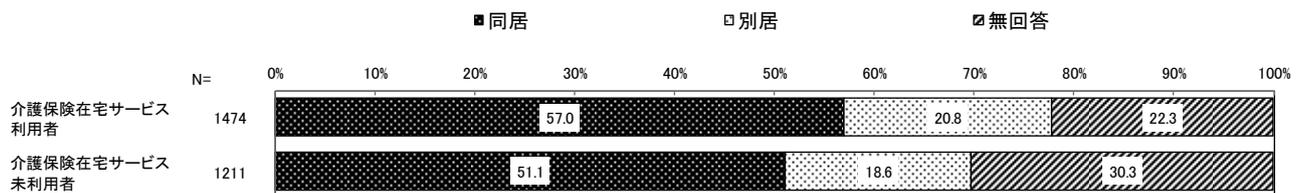
【図表 4-5-1 主な介護者の続柄】



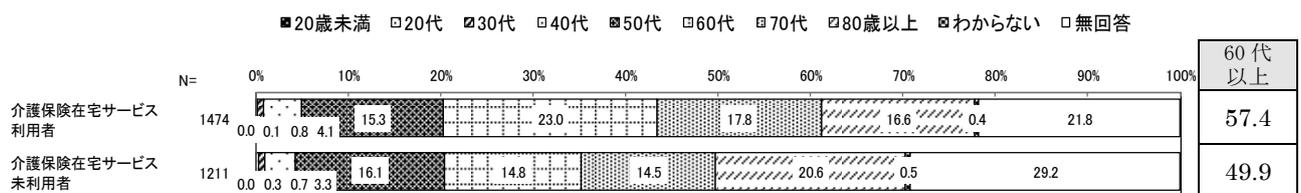
【図表 4-5-2 主な介護者の性別】



【図表 4-5-3 主な介護者の同居状況】



【図表 4-5-4 主な介護者の年齢】

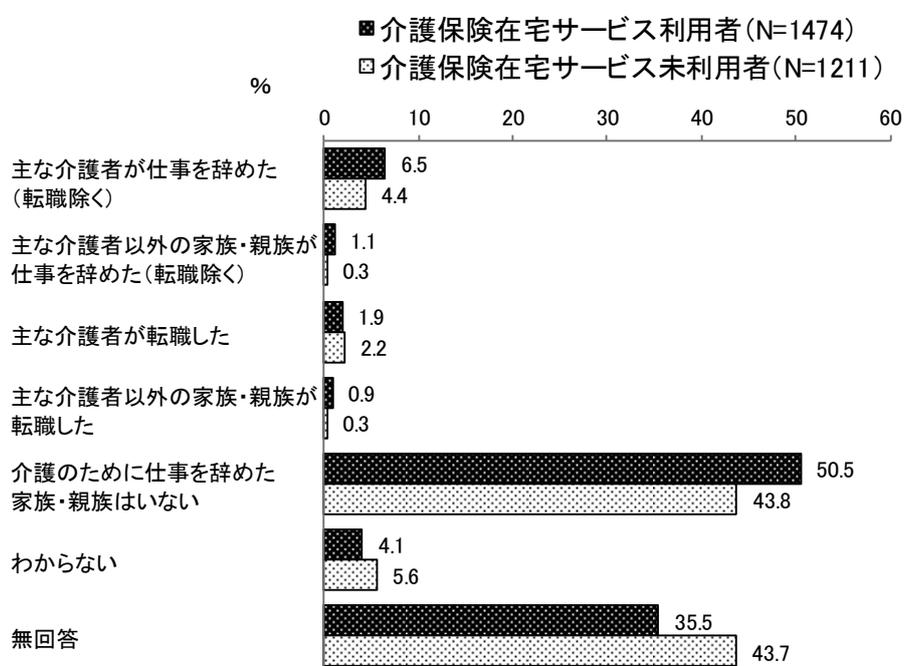


(2) 介護者の就業

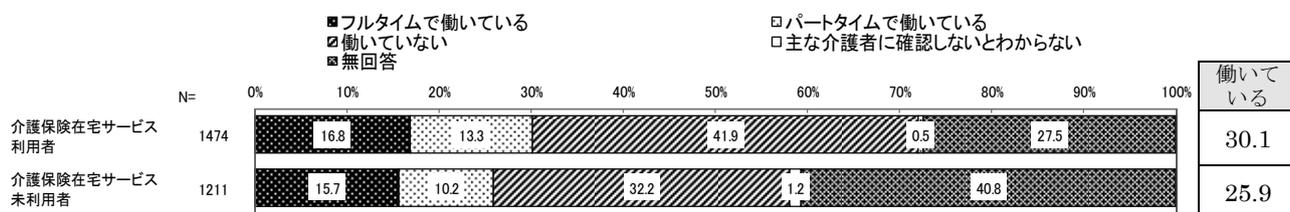
(利用者：問 40・問 41・問 41-1・問 41-3、未利用者：問 39・問 40・問 40-1・問 40-3)

- ◇介護離職の状況は、在宅サービス利用者、在宅サービス未利用者ともに「介護のために仕事を辞めた
家族・親族はいない」が最も高くなっており、4割半ばから5割となっている。【図表 4-5-5】
- ◇主な介護者の勤務形態は、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた
『働いている』が、在宅サービス利用者では30.1%、在宅サービス未利用者では25.9%となっ
ている。【図表 4-5-6】
- ◇主な介護者の介護に伴う勤務調整の状況は、「特に行っていない」が最も高く、介護保険在宅サービ
ス利用者で41.7%、未利用者で50.2%となっている。【図表 4-5-7】
- ◇主な介護者の仕事と介護の両立継続可能性は、「問題はあるが、何とか続けていける」が在宅サービ
ス利用者で49.8%、在宅サービス未利用者で36.7%と、ともに最も高くなっており。【図表 4-5-8】

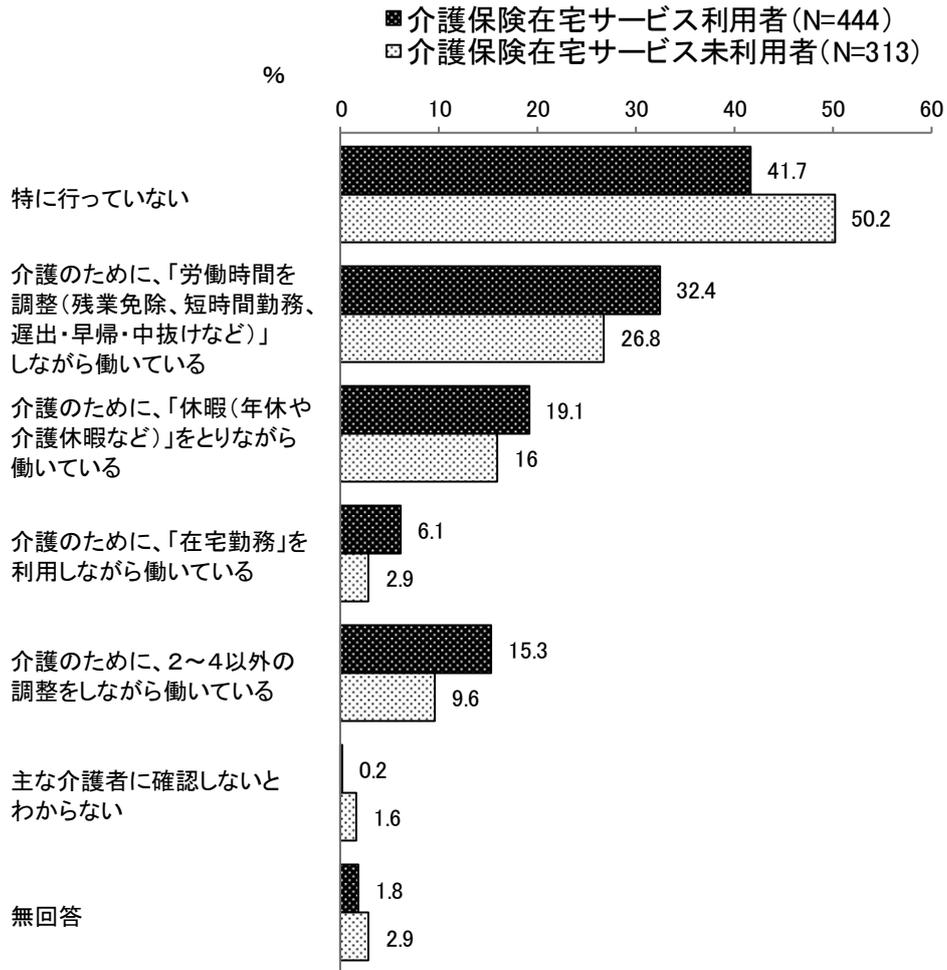
【図表 4-5-5 介護離職の状況[複数回答]】



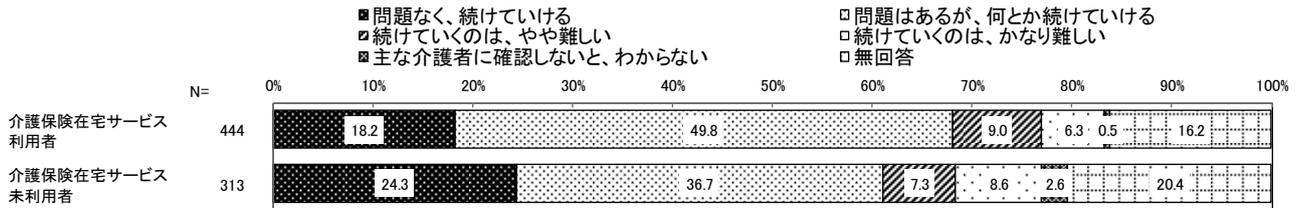
【図表 4-5-6 主な介護者の勤務形態】



【図表 4-5-7 主な介護者の介護に伴う勤務調整の状況〔複数回答〕】



【図表 4-5-8 主な介護者の仕事と介護の両立の継続可能性】



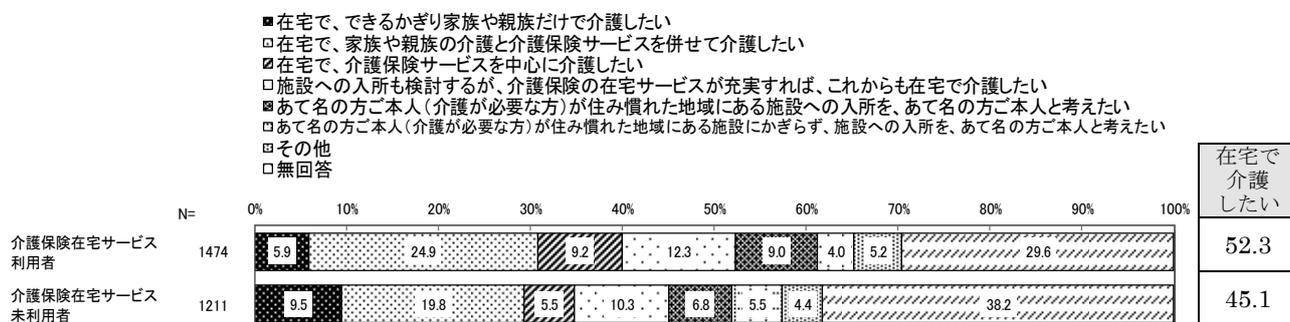
(3) 今後の介護の仕方

(利用者：問 46・問 47、未利用者：問 44・問 45)

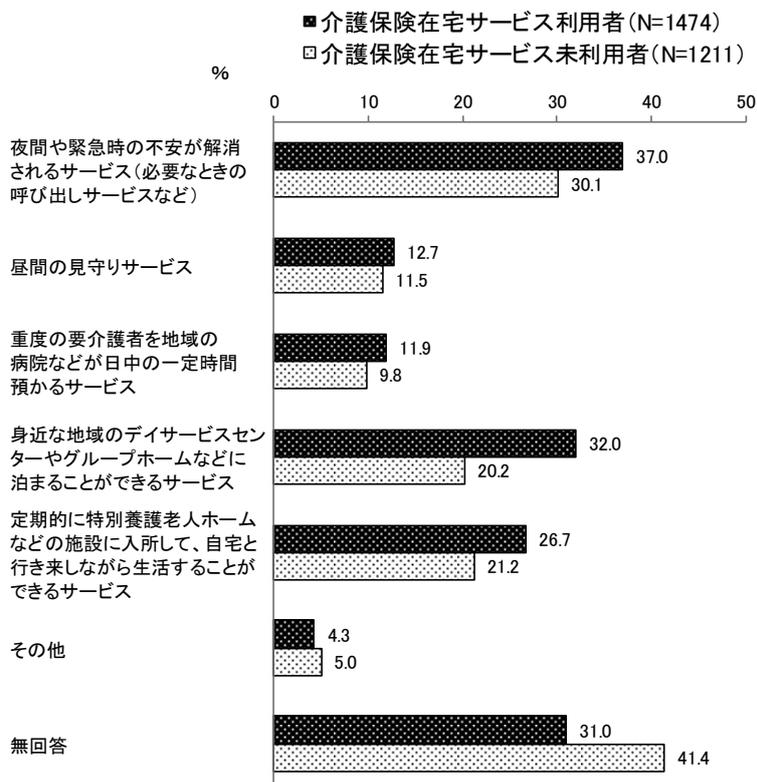
◇今後の介護の仕方は、『在宅で介護したい』（「在宅で、できるかぎり家族や親族だけで介護したい」「在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護したい」「在宅で、介護保険サービスを中心に介護したい」「施設への入所も検討するが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で介護したい」の合計）が、在宅サービス利用者では52.3%、在宅サービス未利用者では45.1%となっている。【図表 4-5-9】

◇在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスの内容は、「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス（必要なときの呼び出しサービスなど）」が在宅サービス利用者で37.0%、在宅サービス未利用者で30.1%と、ともに最も高くなっている。【図表 4-5-10】

【図表 4-5-9 今後の介護の仕方】



【図表 4-5-10 在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスの内容〔複数回答〕】



第5章 介護保険在宅サービス利用者調査

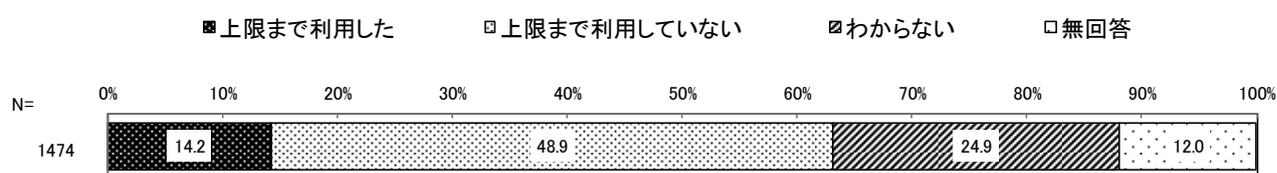
1. 介護保険サービスの利用状況

(問18・問18-1)

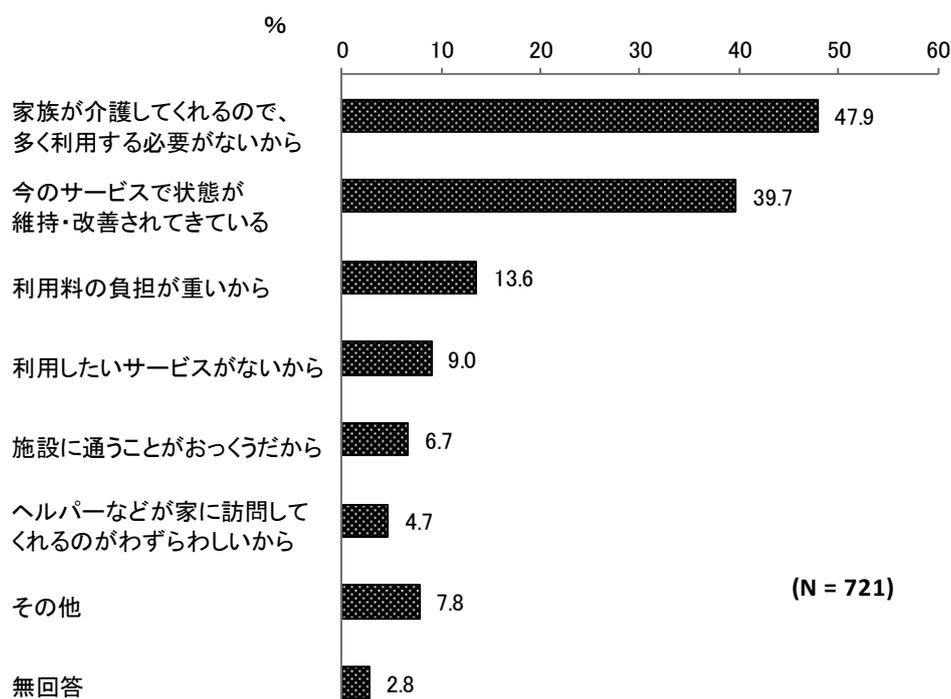
◇介護保険サービスの利用状況は、「上限まで利用していない」が48.9%、「上限まで利用した」が14.2%となっている。【図表5-1-1】

◇利用額上限まで利用していない理由としては、「家族が介護してくれるので、多く利用する必要がないから」が47.9%で最も高く、次いで「今のサービスで状態が維持・改善されてきている」が39.7%となっている。【図表5-1-2】

【図表5-1-1 利用額上限までの利用の有無】



【図表5-1-2 利用額の上限まで利用していない理由[複数回答]】

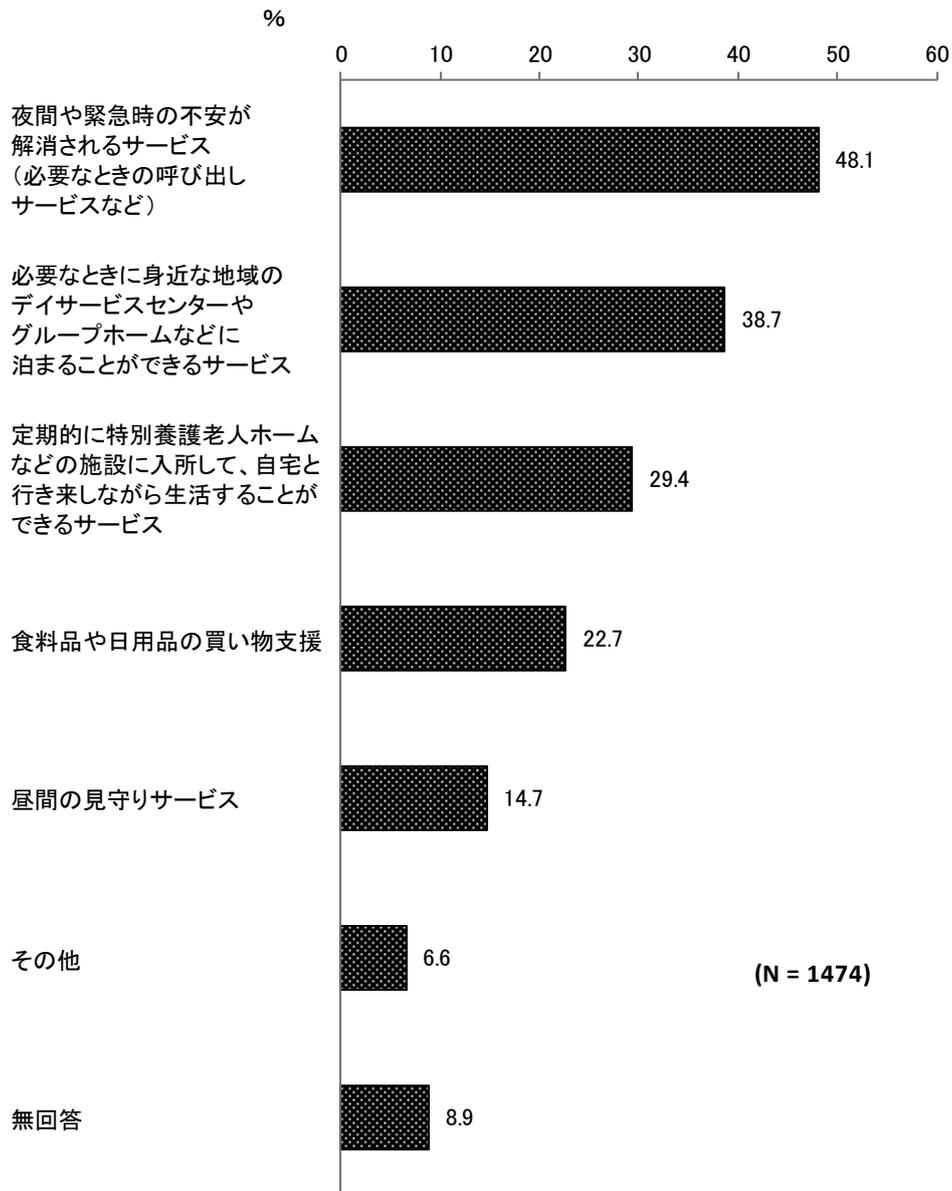


2. 在宅で生活するために必要性が高いサービス

(問 25)

◇在宅で生活するために必要性が高いと思うサービスは、「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス（必要なときの呼び出しサービスなど）」が48.1%で最も高く、次いで「必要なときに身近な地域のデイサービスセンターやグループホームなどに泊まることのできるサービス」が38.7%となっている。【図表 5-2-1】

【図表 5-2-1 在宅生活で必要性が高いサービス[複数回答]】



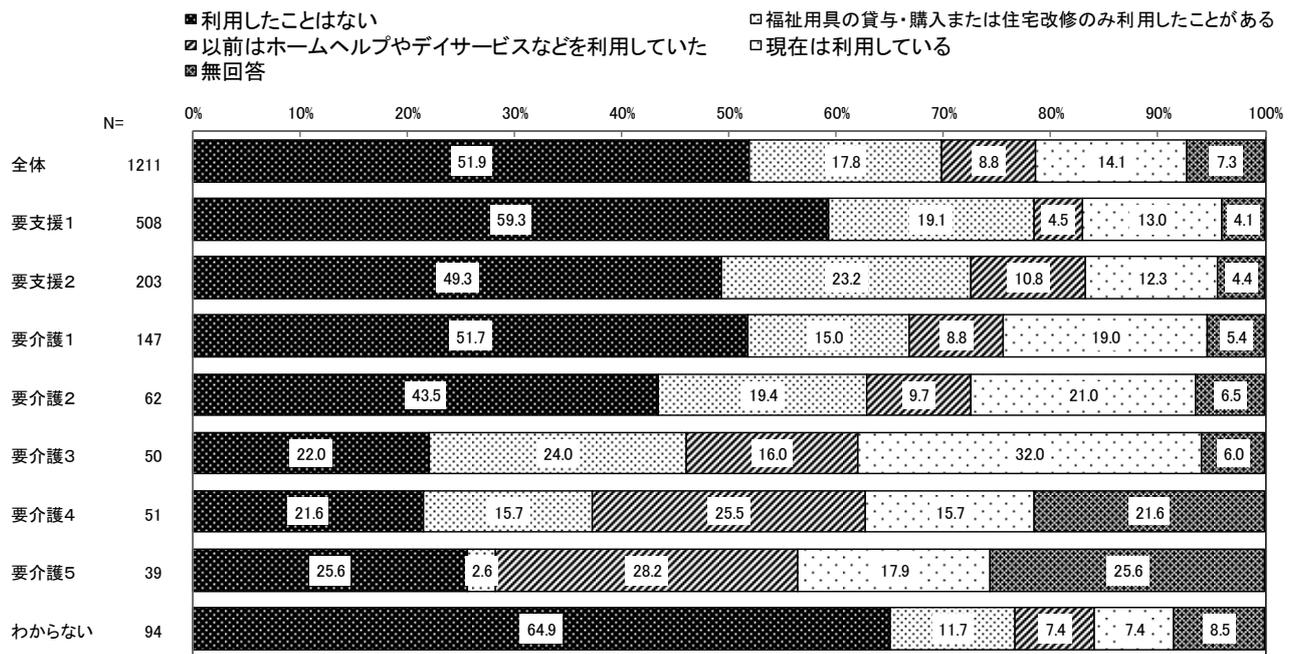
第6章 介護保険在宅サービス未利用者調査

1. 介護保険サービスの利用状況

(1) 在宅サービスの利用経験（問19）

◇介護保険の在宅サービスの利用経験は、「利用したことはない」が51.9%となっており、特に要支援1で59.3%、要支援2で49.3%、要介護1で51.7%と、要介護度が軽いほど概ねその割合が高い傾向にある。【図表6-1-1】

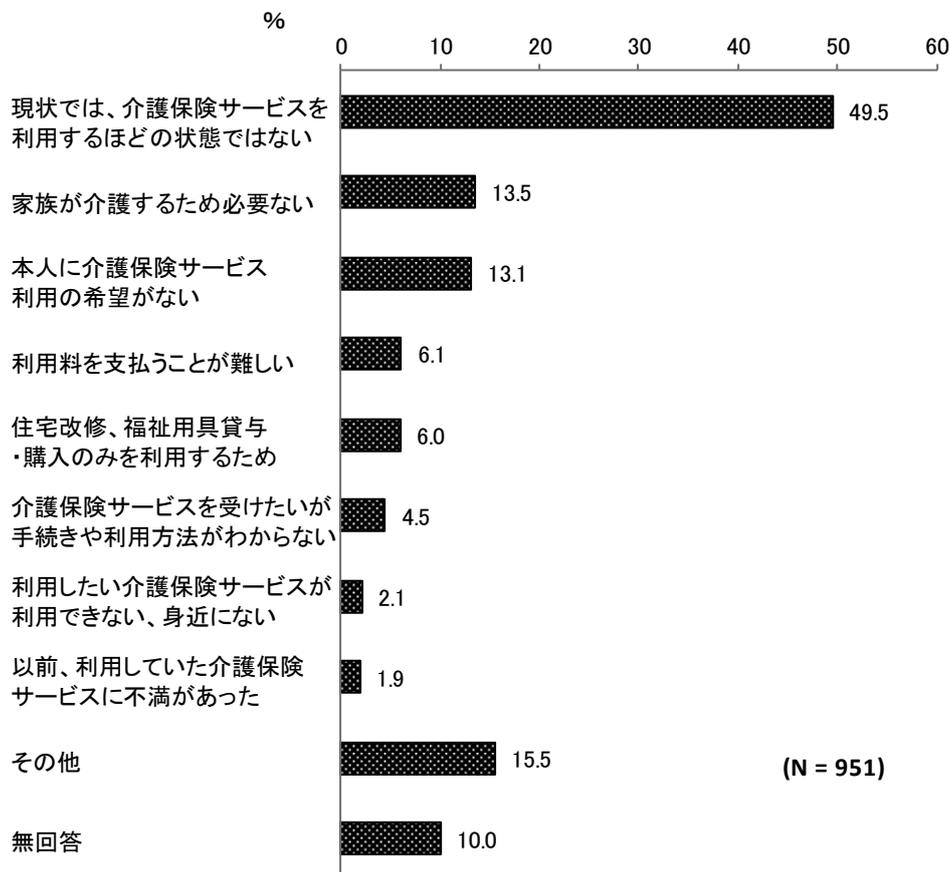
【図表6-1-1 介護保険の在宅サービスの利用経験（要介護度別）】



(2) 在宅サービスを利用していない理由 (問 19-1)

◇在宅サービスを利用していない理由は、「現状では、介護保険サービスを利用するほどの状態ではない」が49.5%で最も高く、次いで「家族が介護するため必要ない」が13.5%、「本人に介護保険サービス利用の希望がない」が13.1%となっている。【図表 6-1-2】

【図表 6-1-2 介護保険の在宅サービスを利用していない理由[複数回答]】



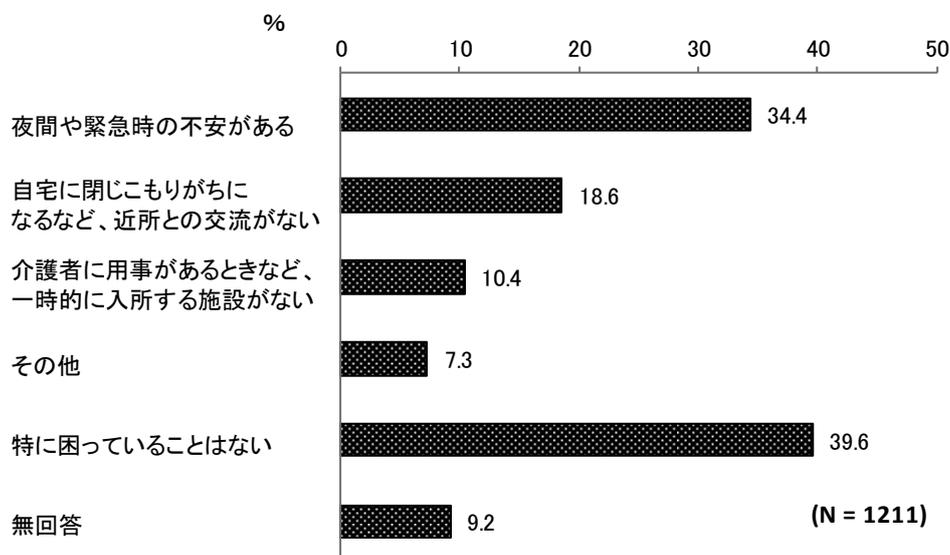
2. 今後の介護保険サービスの利用

(問 20・問 21)

◇在宅で生活する上で困っていることは、「特に困っていることはない」が39.6%で最も高く、次いで「夜間や緊急時の不安がある」が34.4%、「自宅に閉じこもりがちになるなど、近所との交流がない」が18.6%となっている。【図表 6-2-1】

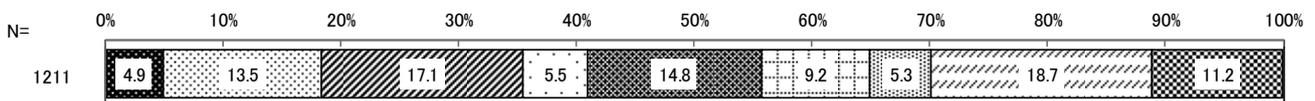
◇今後の介護サービスの利用意向は、「わからない」を除くと、「家族介護が困難になったら在宅サービスを利用したい」が17.1%で最も高く、次いで「今後利用するなら施設サービスを利用したい」が14.8%、「要介護度が現在より重くなったら在宅サービスを利用したい」が13.5%となっている。【図表 6-2-2】

【図表 6-2-1 在宅で生活する上で困っていること [複数回答]】



【図表 6-2-2 今後の介護サービスの利用意向】

- 近いうちに在宅サービスを利用することを考えている
- 要介護度が現在より重くなったら在宅サービスを利用したい
- 家族介護が困難になったら在宅サービスを利用したい
- 緊急時に在宅サービスを利用したい
- 今後利用するなら施設サービスを利用したい
- 将来的にもできるだけ利用したくない
- その他
- わからない
- 無回答



第7章 介護保険施設等サービス利用者調査

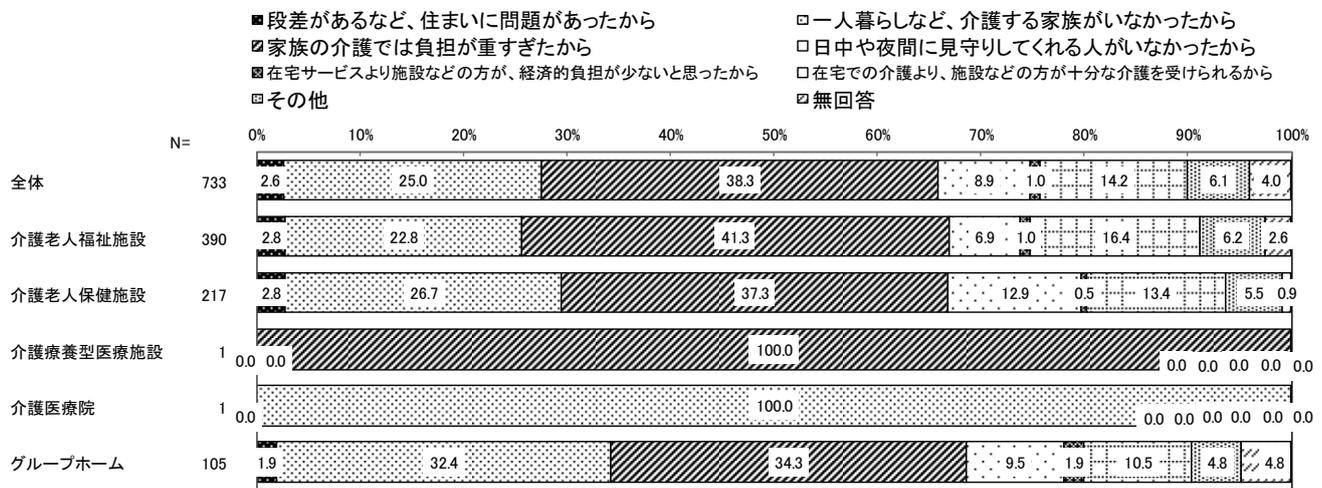
1. 施設等への入所を希望した理由・現在の施設の満足度

(問10・問20)

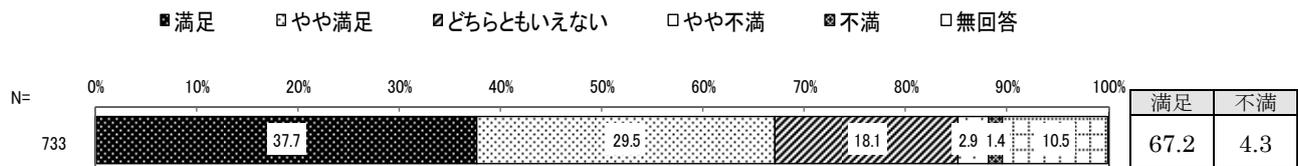
◇施設等への入所を希望した理由は、「家族の介護では負担が重すぎたから」が38.3%で最も高く、次いで「一人暮らしなど、介護する家族がいなかったから」が25.0%、「在宅での介護より、施設などの方が十分な介護を受けられるから」が14.2%となっている。グループホームでは「一人暮らしなど、介護する家族がいなかったから」が32.4%と、他施設と比べて高くなっている。【図表7-1-1】

◇現在の施設への満足度は、「満足」37.7%と「やや満足」29.5%を合わせた『満足』が67.2%、「不満」1.4%と「やや不満」2.9%を合わせた『不満』が4.3%となっている。【図表7-1-2】

【図表7-1-1 施設等への入所を希望した理由（施設別）】



【図表7-1-2 現在の施設の満足度】

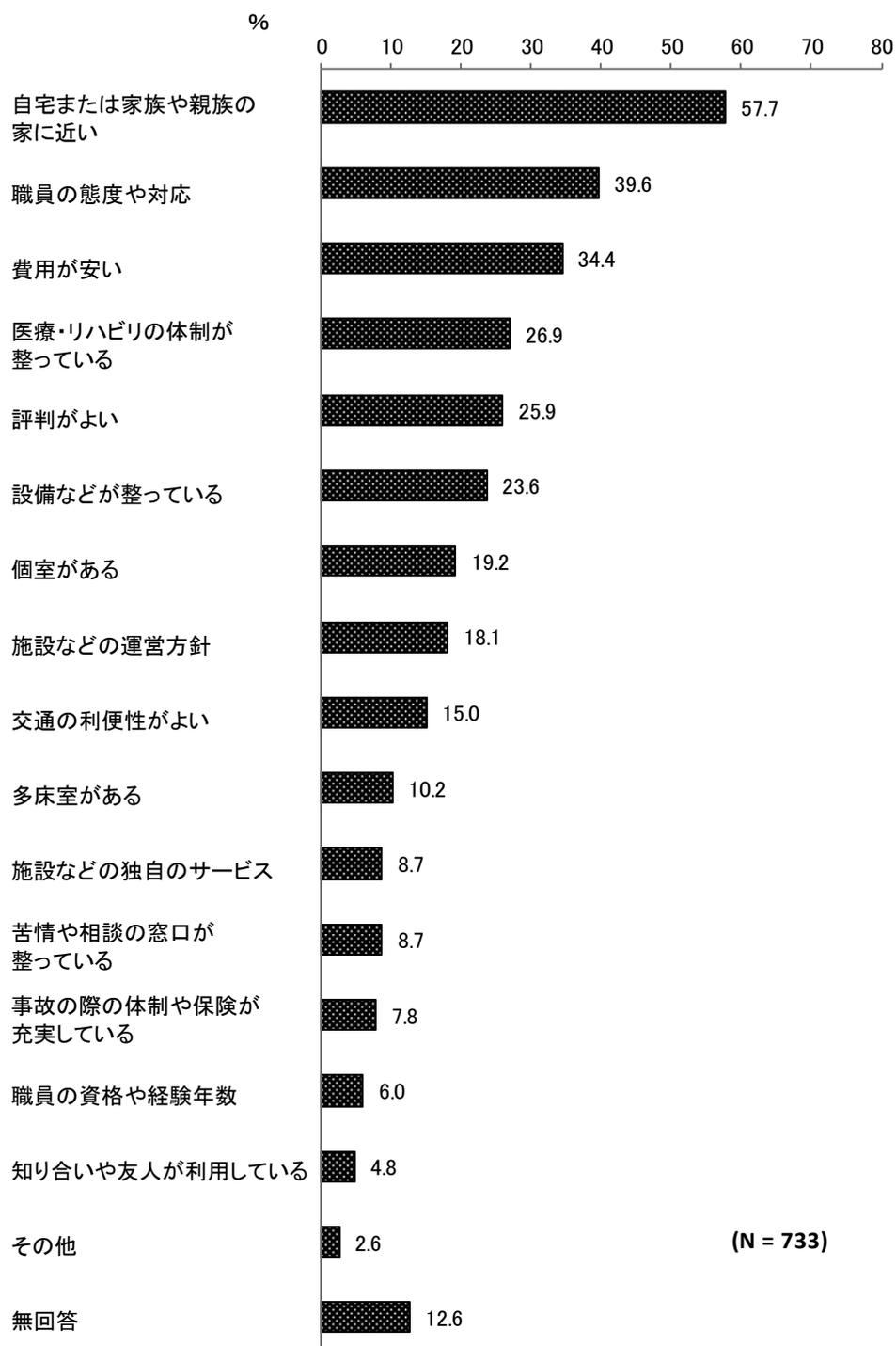


2. 施設等を選ぶときに重視する点

(問 19)

◇施設等を選ぶときに重視する点は、「自宅または家族や親族の家に近い」が57.7%で最も高く、次いで「職員の態度や対応」が39.6%、「費用が安い」が34.4%となっている。【図表 7-2-1】

【図表 7-2-1 施設等を選ぶときに重視する点[複数回答]】



第8章 介護支援専門員調査

1. 回答者の属性

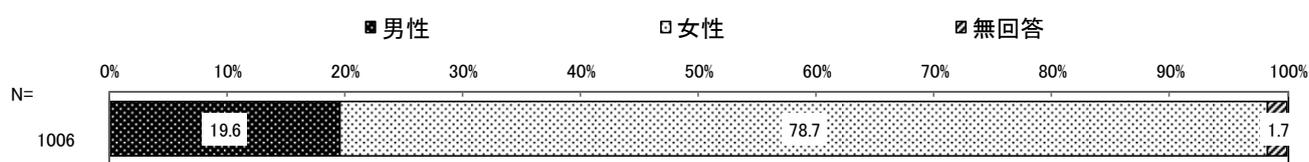
(問1・問2・問3)

◇回答者の性別は、「男性」が19.6%、「女性」が78.7%となっている。【図表8-1-1】

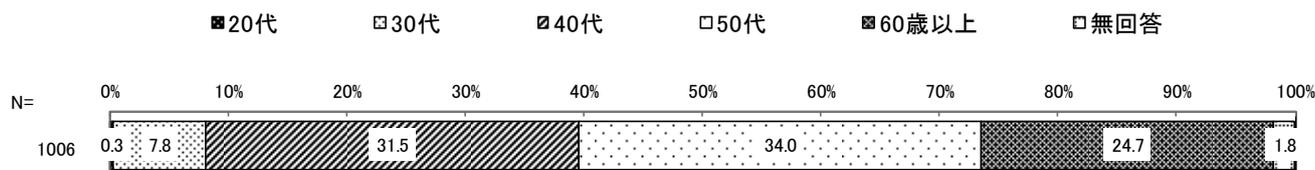
◇年齢は、「50代」が34.0%で最も高く、次いで「40代」が31.5%、「60歳以上」が24.7%となっている。【図表8-1-2】

◇介護支援専門員としての経験年数は、「6年以上」が68.1%で最も高く、次いで「3年～6年未満」が15.4%、「1年～2年未満」が6.2%となっている。【図表8-1-3】

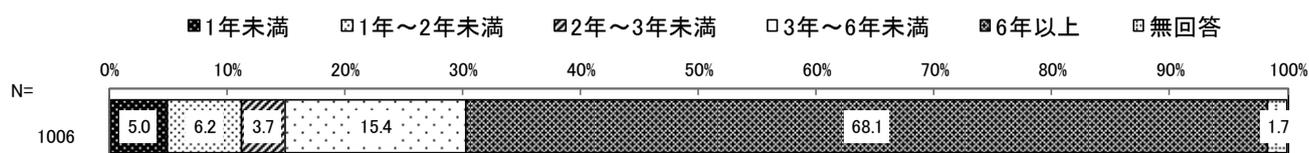
【図表 8-1-1 性別】



【図表 8-1-2 年齢】



【図表 8-1-3 介護支援専門員としての経験年数】



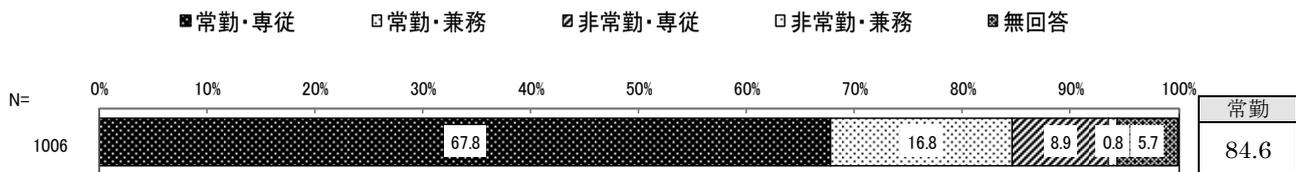
2. 勤務形態・兼務内容

(問6・問6-1)

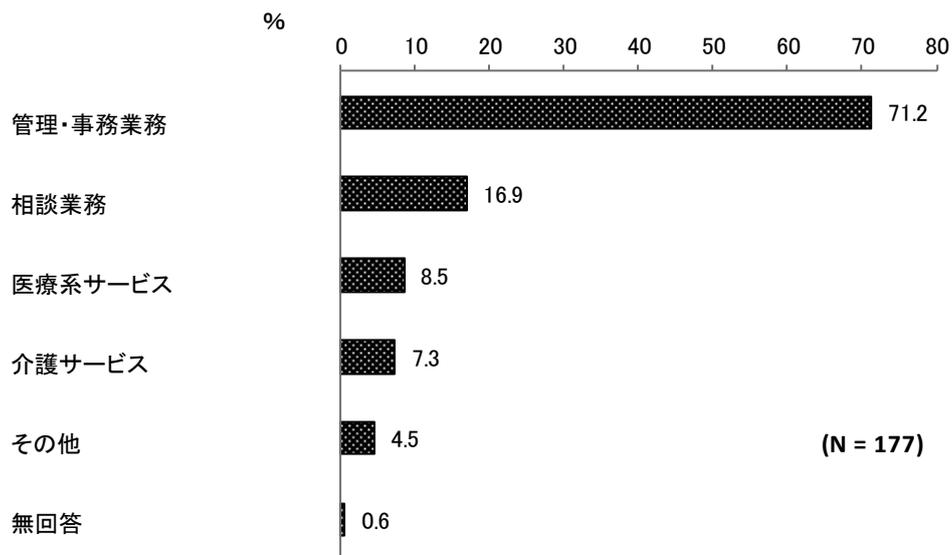
◇勤務形態は、「常勤・専従」67.8%と「常勤・兼務」16.8%を合わせた『常勤』が84.6%となっている。【図表8-2-1】

◇兼務している人の業務内容は、「管理・事務業務」が71.2%で最も高く、次いで「相談業務」が16.9%となっている。【図表8-2-2】

【図表 8-2-1 勤務形態】



【図表 8-2-2 兼務している業務[複数回答]】



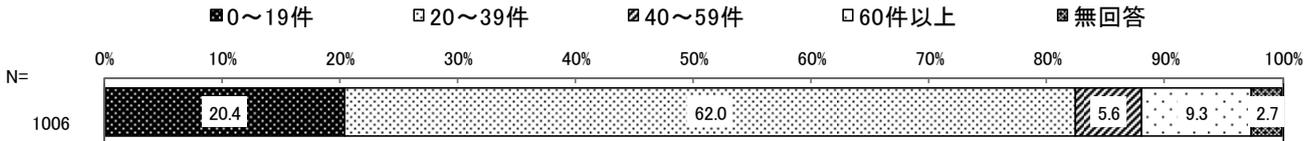
3. ケアマネジメント

(1) 給付管理件数 (問9)

◇令和4年10月に行った給付管理件数は、「20～39件」が62.0%で最も高く、次いで「0～19件」が20.4%、「60件以上」が9.3%となっている。【図表8-3-1】

◇令和4年10月の介護支援専門員一人あたりの給付管理件数は31.4件となっている。なお、令和元年6月の一人あたりの給付管理件数は30.6件となっている。

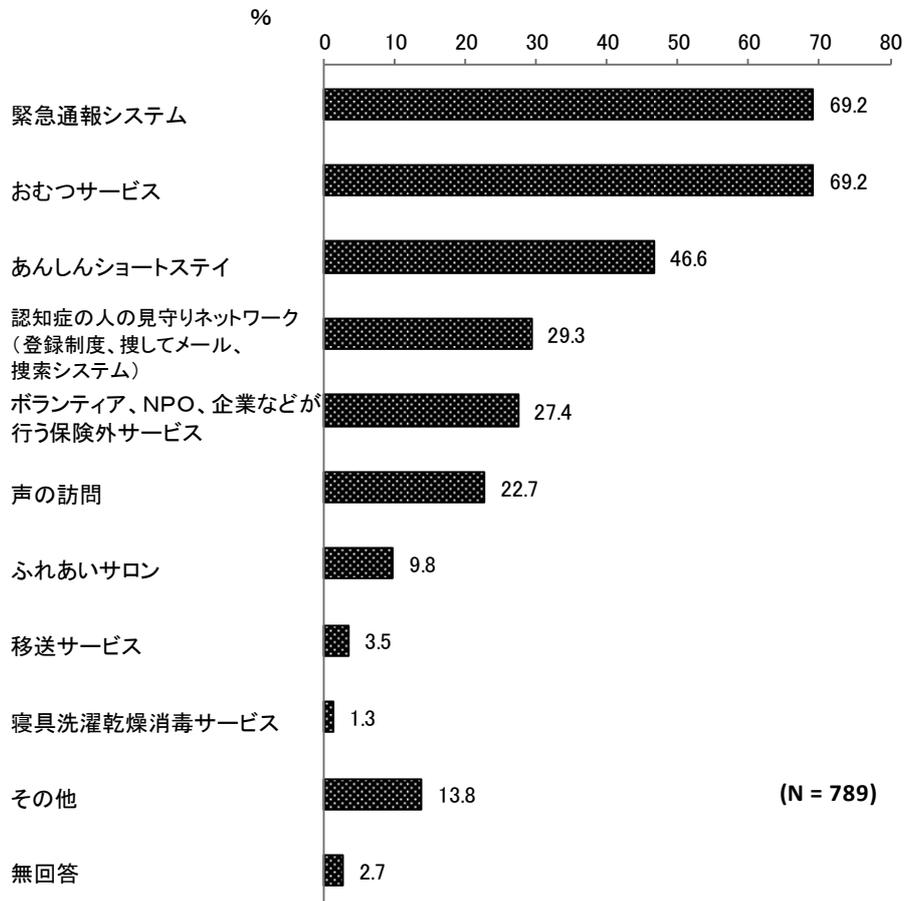
【図表8-3-1 給付管理件数】



(2) 組み合わせた保険外サービス (問10-1)

◇ケアプランで組み合わせた保険外サービスの種類は、「緊急通報システム」と「おむつサービス」がともに69.2%で最も高く、次いで「あんしんショートステイ」が46.6%、「認知症の人の見守りネットワーク（登録制度、捜してメール、検索システム）」が29.3%となっている。【図表8-3-2】

【図表8-3-2 ケアプランで組み合わせた保険外サービスの種類【複数回答】】

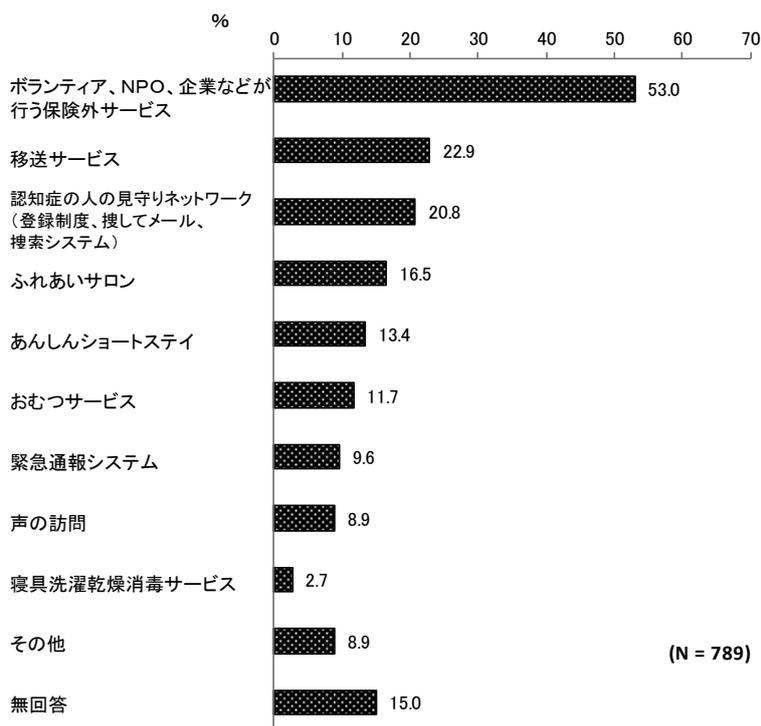


(3) 今後充実が必要な保険外サービス (問 10-3・問 10-4)

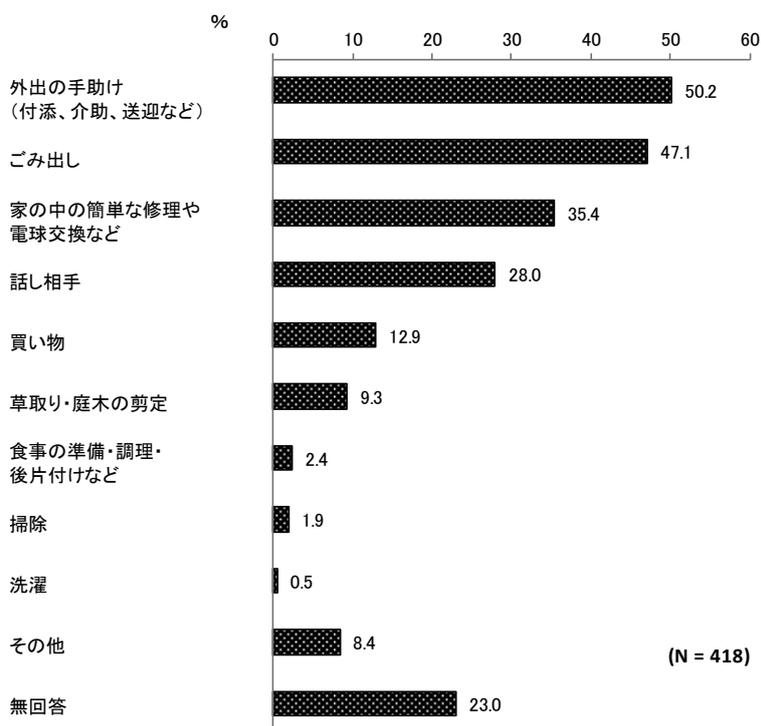
◇今後充実が必要な保険外サービスの種類は、「ボランティア、NPO、企業などが行う保険外サービス」が53.0%で最も高く、次いで「移送サービス」が22.9%、「認知症の人の見守りネットワーク（登録制度、捜してメール、検索システム）」が20.8%となっている。【図表 8-3-3】

◇今後充実が必要なボランティアなどが行う保険外サービスの内容は、「外出の手助け（付添、介助、送迎など）」が50.2%で最も高く、次いで「ごみ出し」が47.1%、「家の中の簡単な修理や電球交換など」が35.4%となっている。【図表 8-3-4】

【図表 8-3-3 今後充実が必要な保険外サービスの種類[複数回答]】



【図表 8-3-4 今後充実が必要なボランティア等が行う保険外サービスの内容[複数回答]】

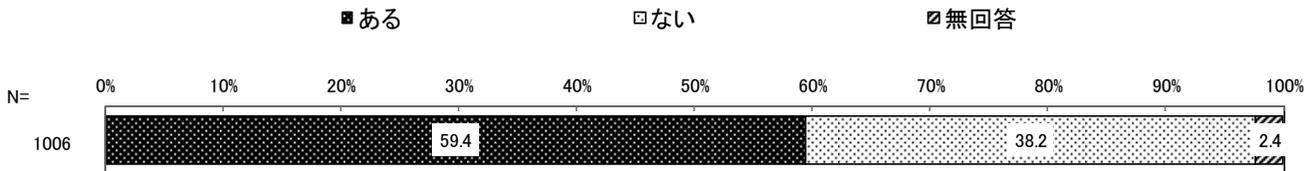


4. 地域ケア会議

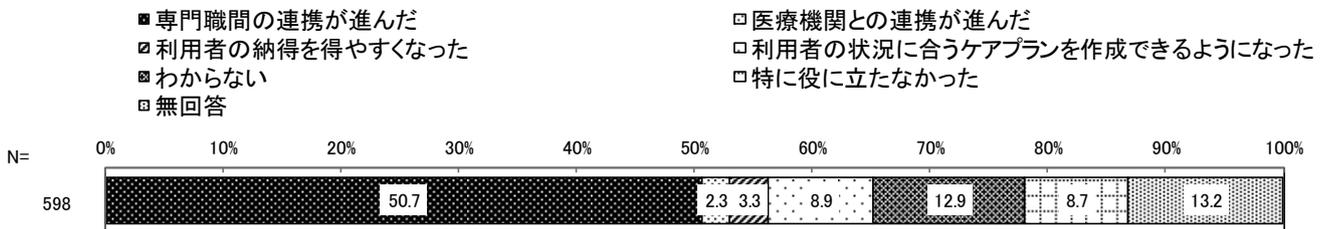
(問 32・問 32-1)

◇地域ケア会議への参加有無は、「ある」が59.4%、「ない」が38.2%となっている。【図表 8-4-1】
 ◇地域ケア会議に参加した効果としては、「専門職間の連携が進んだ」が50.7%で最も高く、半数を超えている。【図表 8-4-2】

【図表 8-4-1 地域ケア会議への参加有無】



【図表 8-4-2 地域ケア会議の効果】

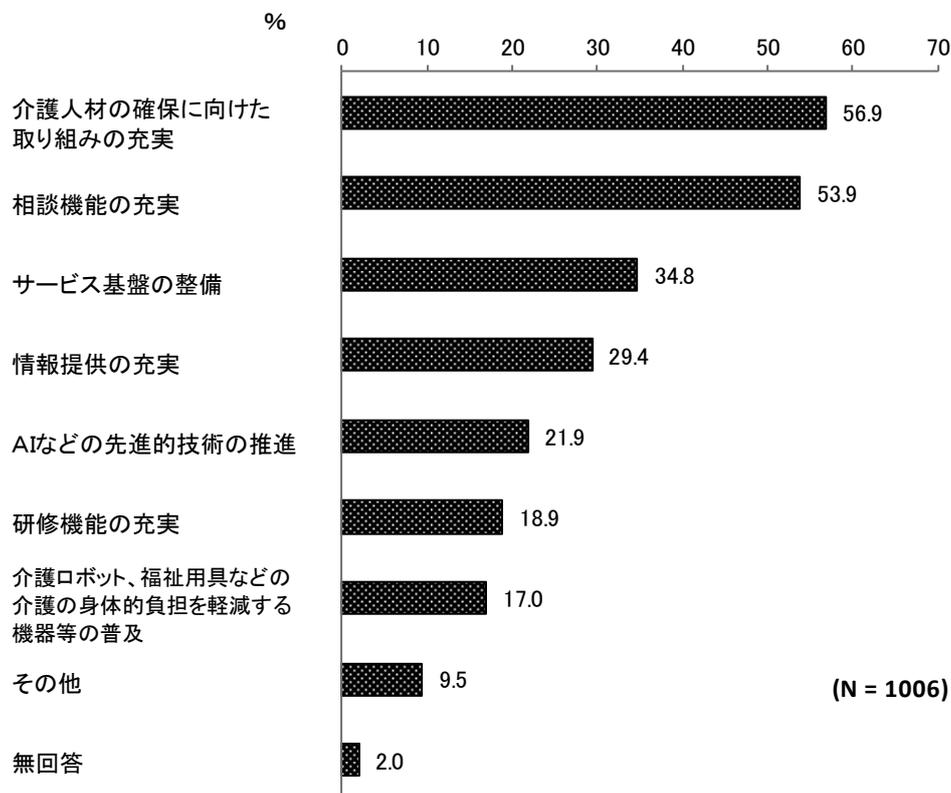


5. 行政に期待する役割

(問 37)

◇今後、行政に期待する役割は、「介護人材の確保に向けた取り組みの充実」が56.9%で最も高く、次いで「相談機能の充実」が53.9%、「サービス基盤の整備」が34.8%となっている。【図表 8-5-1】

【図表 8-5-1 行政に期待する役割[複数回答]】



令和4年度福岡市高齢者実態調査報告書

【概要版】

令和5年7月

発行	福岡市
企画	福岡市 福祉局 高齢社会部 高齢社会政策課 〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号 電話 (092) 711-4595 FAX (092) 733-5914
編集	株式会社東京商工リサーチ 福岡支社 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目9番2号 八百治センタービル4F 電話 (092) 431-2131
